

SSS-T3 (nanoWIN)

整備用ソフト取扱説明書

- 目次 -

1. ご使用の前に	12	6-5. 故障コードの消去	30
1-1. 付属品の確認.....	12	6-5-1. 個別システムからの故障コード消去.....	30
2. 画面説明	13	6-5-2. 全自己診断からの故障コード消去.....	30
2-1. メインメニュー画面説明.....	13	6-6. 故障コードの保存	31
2-2. ヘッダー情報.....	13	6-6-1. 個別システムからの故障コード保存.....	31
3. ホームアプリの概要	14	6-6-2. 全自己診断からの故障コード保存.....	31
4. 各種設定（ユーティリティ）	14	6-7. フリーズフレームデータ	32
4-1. 接続設定.....	14	6-7-1. 故障コード読取画面からの確認.....	32
（Bluetooth によるデバイス登録）.....	14	6-7-2. 全自己診断 診断結果からの確認.....	32
4-2. 接続設定.....	15	6-8. DTC ヘルプ機能	33
（Bluetooth によるプリンタの登録）.....	15	6-9. データモニタ	33
4-3. 自社情報設定.....	18	6-9-1. データモニタの表示.....	33
4-4. 証明書送付メール設定.....	18	6-9-2. データモニタのグラフ表示.....	34
4-5. バックアップ / インポート.....	19	6-9-3. データモニタの保存.....	34
4-5-1. データのバックアップ（保存）.....	19	6-10. カスタマイズ	35
4-5-2. データのインポート（復元）.....	19	6-11. 作業サポート	36
4-6. 規定アプリ設定 / スクリーンショット設定.....	20	6-12. アクティブテスト	37
4-6-1. 規定アプリ設定.....	20	6-13. 保存データ履歴表示と削除	38
4-6-2. スクリーンショット設定.....	20	6-13-1. 診断メニューから保存データ履歴を表示..	38
5. 診断アプリの概要	21	6-13-2. 保存データから保存データ履歴を表示.....	38
6. 車両診断	21	6-13-3. 診断メニューから保存データ履歴を削除..	39
6-1. 車両への接続.....	21	6-14. I/F 設定	39
6-2. 車両情報登録.....	21	6-15. I/F 情報	40
6-2-1.	21	7. 特殊機能	41
自動車検査証の 二次元バーコード読取りによる車両情		7-1. 特殊機能項目.....	41
報自動登録.....	21	8. ユーザーガイド	41
6-2-2. 自動車検査証の IC チップ読取りによる車両情		8-1. ユーザーガイド項目.....	41
報自動登録.....	23	9. ADAS CALIBRATION	42
6-2-3. 手動による車両情報自動登録.....	25	9-1. エーミング.....	42
6-2-4. メーカー・車種の選択.....	26	9-1-1. 1 回目の自己診断.....	42
6-2-5. 登録車両の削除.....	26	9-1-2. エーミング.....	43
6-3. 診断メニューの選択.....	27	9-1-3. 2 回目の全自己診断.....	43
6-3-1. 診断から診断ソフトのメインメニュー表示.....	27	9-2. エーミング証明書の編集	44
6-3-2. 自動遷移削除.....	27	9-3. 保存データ履歴表示と削除	44
6-3-3. 診断ソフトのメインメニュー機能説明.....	27	9-3-1. ADAS 車両情報選択から保存データ履歴を表示	44
6-4. 故障コードの読取り.....	28	9-3-2. 保存データ画面から保存データ履歴を表示.....	44
6-4-1. 個別システムを選択した場合.....	28		
6-4-2. 全自己診断を選択した場合.....	29		

10. HV/PHV/EV.....	45
10-1. HV/PHV/EV	45
10-2. 証明書の作成.....	46
10-3. 保存データ履歴表示と削除	46
10-3-1. HV/PHV/EV 車両情報選択から保存データ履歴 を表示	46
10-3-2. 保存データ画面から保存データ履歴を表示.....	46
11. EDR.....	47
11-1. EDR	47
11-1-1. EDR データの表示	47
11-1-2. EDR データの保存	48
11-2. 証明書の作成.....	49
11-3. 保存データ履歴表示と削除	49
11-3-1. EDR 車両情報選択から保存データ履歴を表示	49
11-3-2. 保存データ画面から保存データ履歴を表示.....	49
12. 更新.....	50
12-1. I/F とアプリの更新	50
13. 保証.....	52
13-1. 保証期間.....	52
13-2. 保証規定	52
13-3. お問い合わせ	52

安全にお使いいただくために必ずお読みください。

取扱説明書には、お使いになる人や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために重要な内容を記載しています。

本製品をより効率的にお使いいただくために、取扱説明書の内容についてよくご理解し記載事項をお守りください。

また、本製品を十分に活用していただくためには、車両コンピュータシステムを熟知されている必要があります。本製品を使用する際に修理書を参照せず、無理な使い方では車両を破損させた場合、正しい使用方法以外で発生した損害については、一切の責任を負いかねます。

使用上の注意・禁止事項

- 診断ケーブルを車両から着脱する際は、車両のイグニッションスイッチが OFF であることを必ず確認してください。
イグニッションスイッチが ON の位置で脱着すると、本体やプログラムを破壊する場合があります。
- ケーブルを無理に引っ張らないでください。
- 車両の診断コネクタにケーブルがしっかりと接続されていることを確かめてから、本製品をお使いください。
- 付属のシガー電源ケーブル以外を本体側電源コネクタに差し込まないでください。
- 別の製品のケーブルを使用しないでください。
- 本体のコネクタ部に異物を入れないでください。
- 本体およびケーブル、アダプタ等の金属端子部に直接手を触れないでください。
汚れによる接触不良や静電気による破壊等が発生する場合があります。
- 端子部分にエンジンオイルなどを付着させないでください。接触不良の原因となります。
- エンジンオイル、ガソリン、不凍液およびバッテリー液を本体に付着させないでください。
- アルコールを含む液体で本製品をふかないでください。割れの原因となります。
- 気温 0° C ~ 50° C、湿度 80%以下の環境でご使用ください。
- ケーブルの被覆が破れた場合は、ショートのおそれがありますのでご使用を中止してください。
- 本体およびケーブル等を水に濡らしたり、衝撃等を与えないでください。
- 本体は防水仕様ではありませんので水に濡らさないでください。
- めれた手で、本製品に触れないでください。
- 運転者は、運転中に本製品を操作しないでください。
- 電源電圧は DC10V 以上 32V 以下でお使いください。
- 人的な傷害を未然に防ぐために、必ずパーキング・ブレーキを確実にかけ、また車輪止めを行い、車両の点検・修理を行ってください。
- 車庫などの周囲が囲まれている空間でエンジンを作動させたまま点検を行う際には、必ず十分な換気を行ってください。
排気ガス中には意識不明状態や死亡に至らせる恐れのある無色無臭の非常に危険な一酸化炭素が含まれております。
排気ガスは絶対に吸い込まないようにしてください。
- 本製品を分解・改造しないでください。

保管場所について下記の場所には保管しないでください。

- 水のかかる場所
- 強い衝撃が加わる場所
- 気温 -20° C 以下 70° C 以上、湿度 80% 以上の場所
- 結露のある場所
- 直射日光があたり炎天下の車室内など高温になる場所

1. ご使用の前に

整備用ソフトは「SSS-T3(Nano WIN) 整備用ソフト付セット」または「SSS-T3(Nano WIN) 整備用オプションソフト」をご購入いただく必要があります。

また、別途 Windows がインストールされた PC またはタブレットが必要となります。

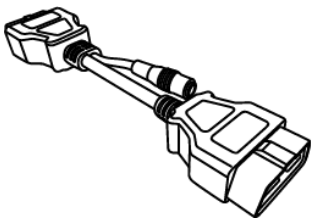
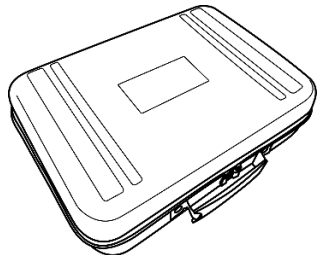
対応 OS は Windows 10 以降です。

付属のインストールガイドを参考に、別途ご用意いただいた PC またはタブレットに整備用ソフトのインストールを行ってください。

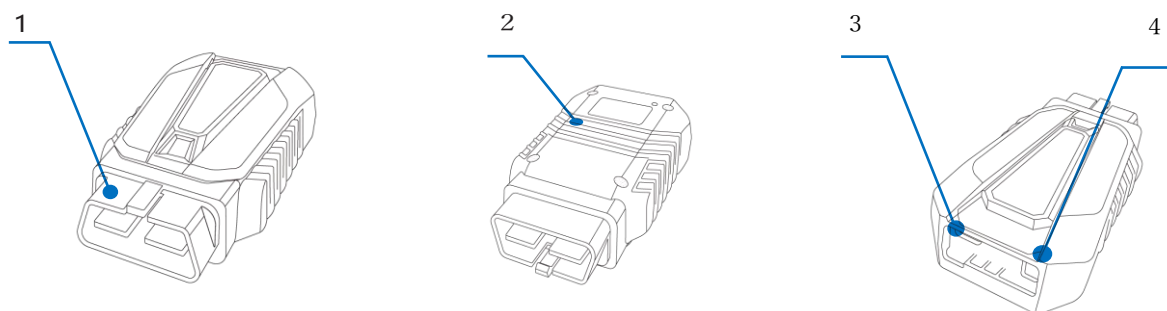
1-1. 付属品の確認

ご使用前にすべての製品が揃っていることを確認してください。

万一、不足の品がありましたらお手数ですがお買い上げの販売店までご連絡ください。

			・クイックスタートガイド (整備ソフト用) (1部)
ワニロアダプタ	OBD2 電源アダプタ	シガーケーブル	書類
	※OBD 検査時に OBD2 電源アダプタは使用しないでください。		
キャリングケース			

● インターフェイス



名称	内容
1. OBD II コネクタ	OBD II コネクタの接続口となります。
2. 銘板ラベル	本体のシリアル番号が記載されています。
3. USB Type Cポート	USB Type C ケーブルでパソコンと接続します。
4. ステータスランプ	車両 DLC に接続すると青色に点灯。その後緑⇄青色の交互に点灯します。(通信待機状態)

2. 画面説明

2-1. メインメニュー画面説明

(1) メインメニュー画面は以下 3 つの画面で構成されています。(左右のボタンを押すことで画面が切り替わります)



①	車両診断	各種診断を行います。
②	特殊機能	メンテナンスモード、DPF 強制再生、エーミング、EDR を行います。
③	ADAS	エーミング証明書の発行を行います。
④	HV/PHV/EV	電気自動車・ハイブリッド車の駆動用バッテリー診断を行います。
⑤	更新	nanoWIN 本体と接続してソフトウェアの更新を行います。
⑥	保存データ	保存した故障コードやデータモニタ、各種証明書の表示などを行うことができます。
⑦	EDR	イベントデータレコーダー(EDR)の読込が行えます。
⑧	ユーザガイド	各種取扱い説明書などを表示します。

2-2. ヘッダー情報



①	I/F 有効期限	I/F (nanoWIN) の有効期限を表示します。 ユーティリティの I/F ボックス設定で「設定済」の I/F の有効期限を表示します。 (メインメニュー画面のみ表示)
②	スクリーンショット	タップすることで画面のスクリーンショットが行えます。
③	I/F 接続状態	I/F の接続状態が表示されます。
④	バッテリー電圧	車両バッテリー電圧の数値が表示されます。

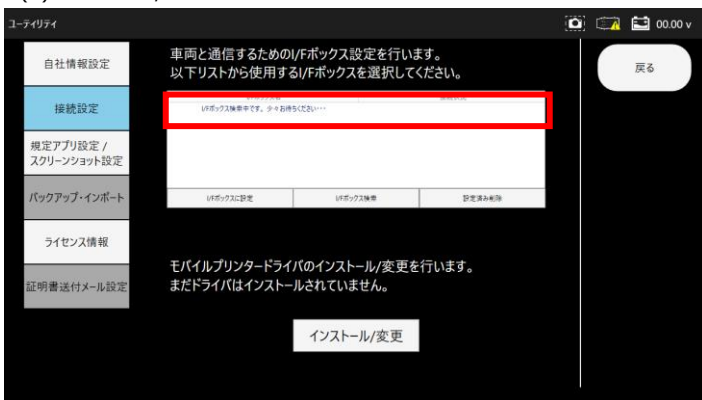
3. ホームアプリの概要

本アプリケーションでは、車両情報の(登録・削除)や保存した診断情報の再表示、また各種設定などを行うことができます。

4. 各種設定 (ユーティリティ)

4-1. 接続設定 (Bluetooth によるデバイス登録)

- (1) 車両のイグニッション SW が OFF の状態で車両診断コネクタ (DLC)に デバイス本体(以下 I/F) を接続します。
- (2) メインメニュー画面から「ユーティリティ」-「接続設定」を選択します。
- (3) 自動的に I/F ボックスの検索が行われます。

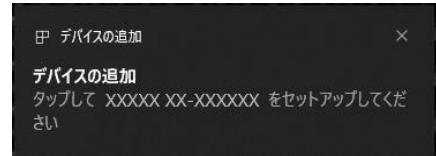


- (4) 「I/F ボックス名」のリストに使用するデバイスがない場合には「I/F ボックス検索」ボタンをタップして再度検索を行ってください。

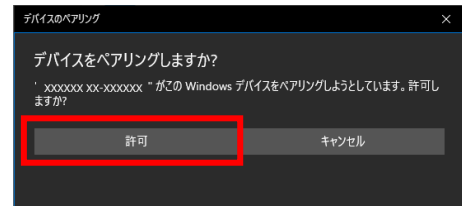
- (5) ご使用のデバイスが表示されたらデバイス名をタップし、「I/F ボックスに設定」ボタンをタップしてください。



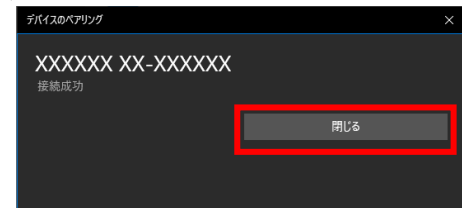
- (6) 初回ペアリング時のみ Windows から通知からのダイアログが表示されるため選択します。(画面右下辺りに表示されます。)



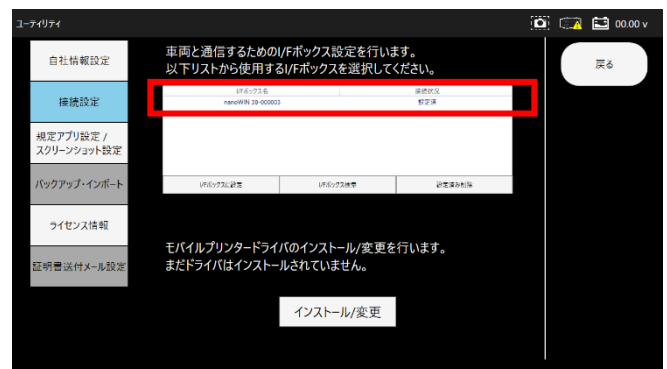
- (7) 許可を選択します。



- (8) 接続が成功すると「接続成功」と表示されるため、「閉じる」を選択します。



- (9) 該当の I/F ボックスの接続状況が「設定済」となり I/F ボックスの接続設定は完了となります。



4-2. 接続設定

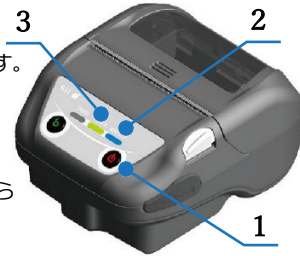
(Bluetooth によるプリンタの登録)

オプションのモバイルプリンタ (TP-SIIMP-B30) と Bluetooth 接続で簡易印刷が行えます。

※事前にタブレットの Bluetooth 機能は ON にしてください。
※TP-SIIMP-B30 プリンタはオプション製品です。

(1) プリンタを接続モードにします。

- ① プリンタの電源ボタン (1) を長押しします。
- ② POWER ランプ(3)の緑色が点灯して
- ③ WIRELESS ランプ(2)の青色が点滅から 2 回点滅を繰り返すまで長押しします。
- ④ 青色ランプが 2 回点滅を繰り返し始めたらボタンから手を離します。(接続モード)

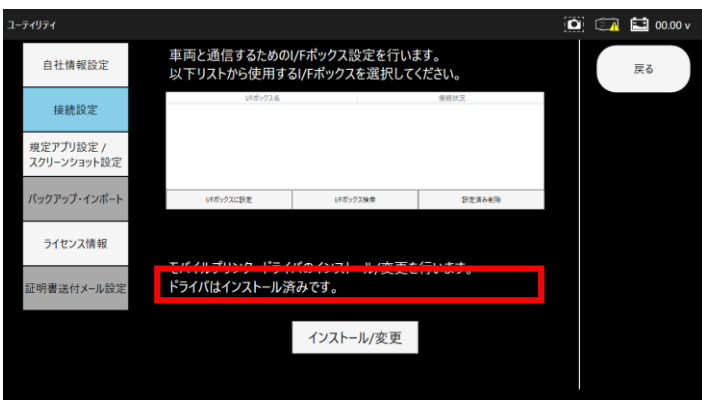
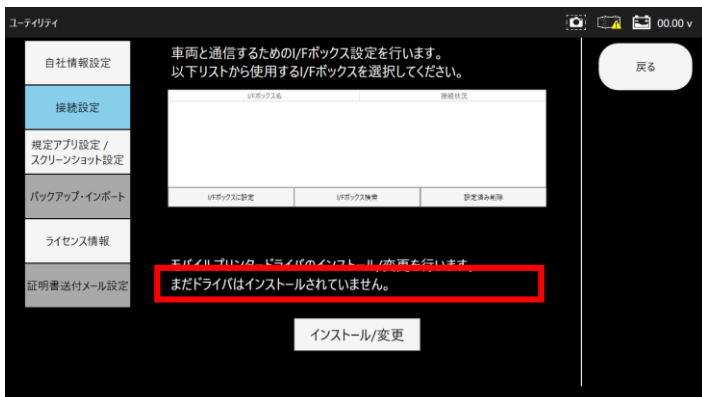


(2) 「ユーティリティ」 - 「接続設定」を選択します。

(3) プリンタのドライバがインストールされているか確認を行います。

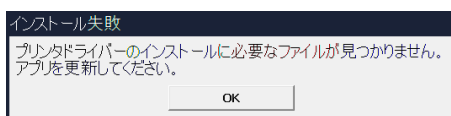
「まだドライバはインストールされていません。」と表示されている場合(4)の手順からドライバをインストールして下さい。

「ドライバはインストール済みです。」と表示されていて、モバイルプリンタと接続が出来ない場合は(6)の手順を参照してください。

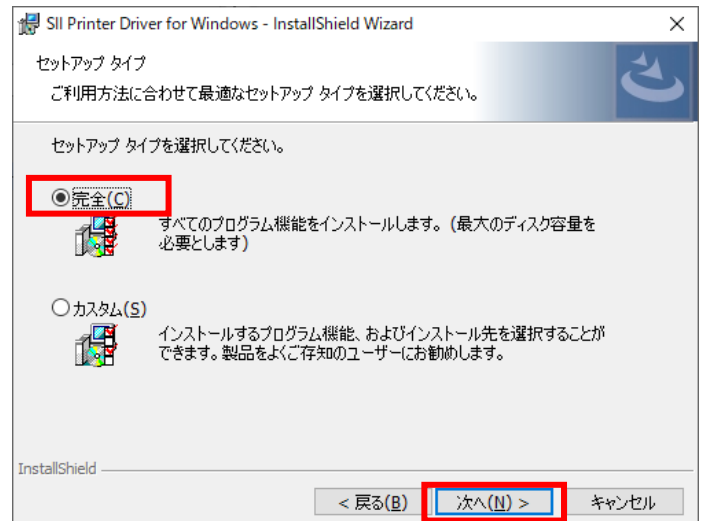
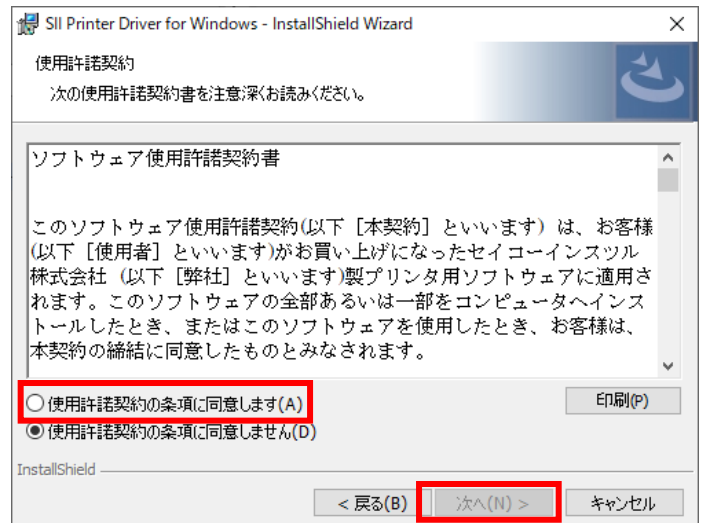
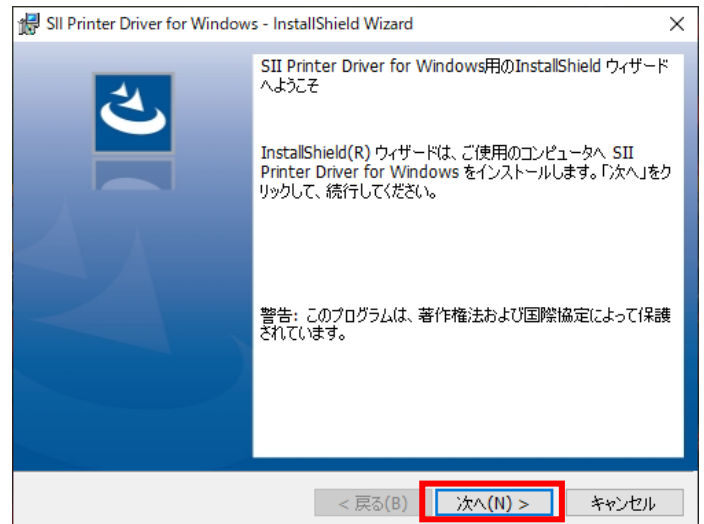


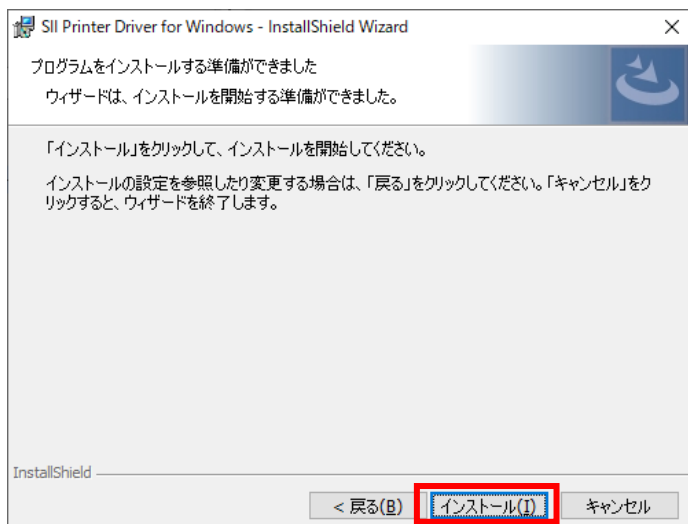
(4) 「インストール/変更」ボタンを選択してドライバのインストールを行ってください。

下記画像が表示された場合は、アプリのアップデートを行ってください。

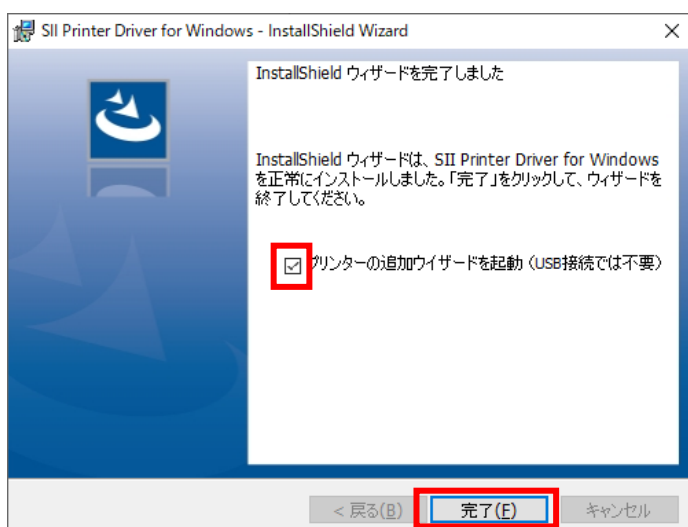


(5) ドライバのインストール実施。画面に従い選択を行ってください。



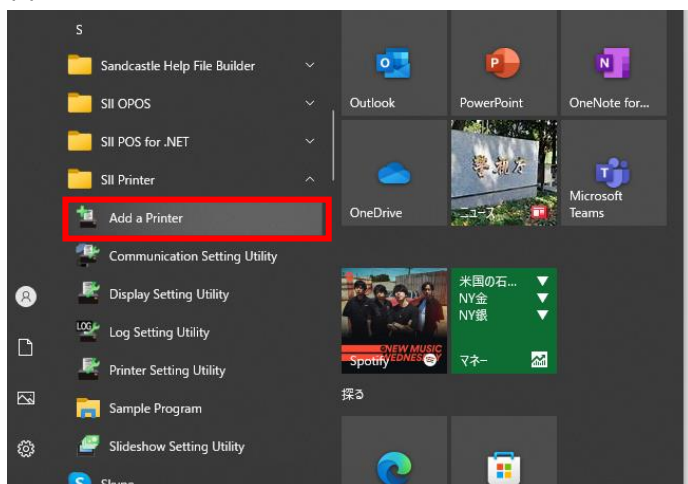


- (6) モバイルプリンタとのペアリングを行います。
「プリンターの追加ウィザードを起動（USB 接続では不要）」にチェックを入れて「完了」ボタンを選択します。

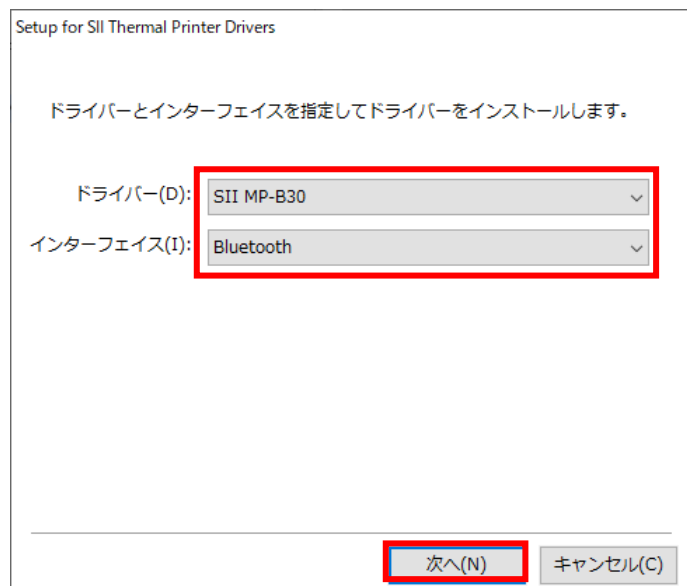


※チェックを選択し忘れた場合や、後からプリンタを設定する場合は
スタートメニューから「SII Printer」内の「Add a Printer」を起動
します。

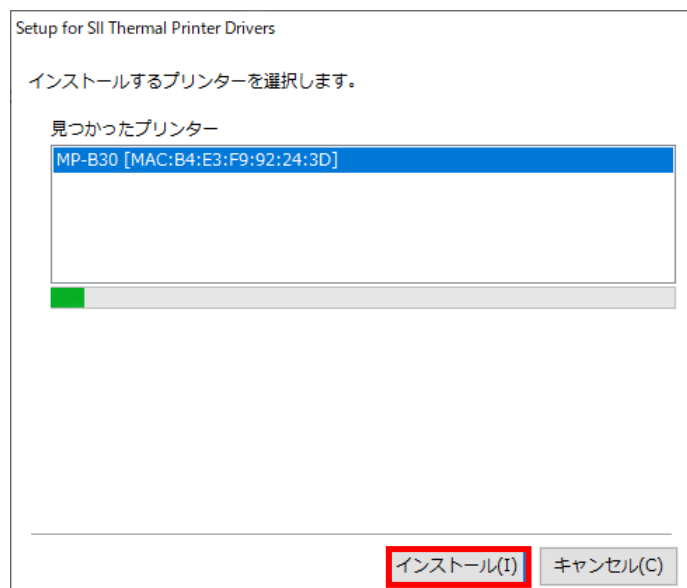
(7) ペアリング設定



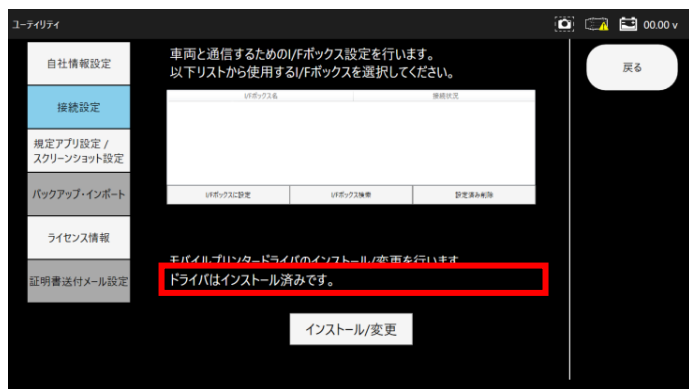
- (8) ドライバの項目から対象のプリンタ「SII MP-B30」、インターフェイスは「Bluetooth」を選択後に「次へ」を選択してください。



- (9) モバイルプリンタの検索が行われます。
モバイルプリンタが見つかったら、機種名を選択し「インストール」
を選択して下さい。
見つからない場合は、(1)の手順で行った接続モードにして再度
行ってください。



- (10) 「ドライバはインストール済みです。」と表示されていれば接続設定は完了となります。



- (11) モバイルプリンタでの印刷時、データモニタや故障コード等でモバイルプリンタ印刷時に以下ダイアログが表示されます。
(9)で指定したモバイルプリンタが表示されているため、選択し「印刷」ボタンを選択すると印刷が行われます。



4-3. 自社情報設定

各入力フォームの情報は各証明書の情報に反映されます。

- (1) 「ユーティリティ」 - 「自社情報設定」を選択します。
- (2) 各入力フォームをタップして入力します。

設定項目	入力内容
会社名	
認証番号	
担当者名	
Web	
TEL	
FAX	
郵便番号	
住所	
eMail	
備考欄	

- (3) 入力後「確定」ボタンを選択し、「データ更新完了しました。」のメッセージが表示されれば登録完了です。

設定項目	入力内容
会社名	株式会社 XXXXXXXX
認証番号	
担当者名	
Web	
TEL	0123456789
FAX	0123456789
郵便番号	111-1111
住所	東京都品川区
eMail	
備考欄	

4-4. 証明書送付メール設定

証明書を PDF で送付する際にメール宛先が自動的に設定されます。

※メールアドレスが登録されていない場合は、証明書をメールで送付することが出来ません。

- (1) 「ユーティリティ」 - 「証明書送付メール設定」を選択します。
- (2) 各入力フォームをタップして入力します。

設定項目	入力内容
メールアドレス1	
メールアドレス2	
メールアドレス3	
メールアドレス4	
メールアドレス5	
メールアドレス6	
証明書送付メール設定	

- (3) 入力後「確定」ボタンを選択し、「データ更新完了しました。」のメッセージが表示されれば登録完了です。

設定項目	入力内容
メールアドレス1	xxxx@test.com
メールアドレス2	
メールアドレス3	
メールアドレス4	
メールアドレス5	
メールアドレス6	
証明書送付メール設定	

4-5. バックアップ / インポート

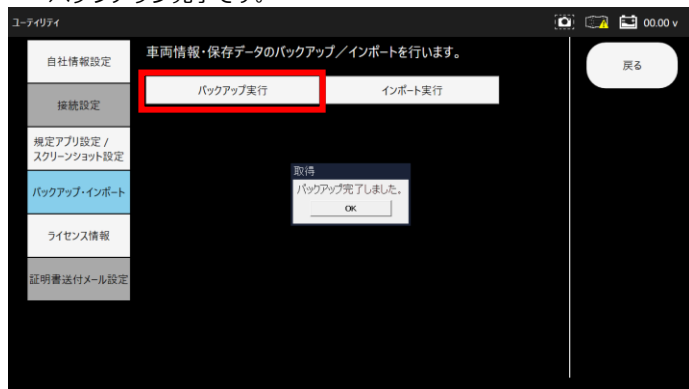
診断を実施した車両や自社情報のバックアップおよびバックアップデータをインポートしてデータの復元が行えます。

4-5-1. データのバックアップ（保存）

(1) 「ユーティリティ」 - 「バックアップ / インポート」 を選択します。



(2) 「バックアップ実行」 をタップします。
「バックアップ完了しました」 のメッセージが表示されればバックアップ完了です。

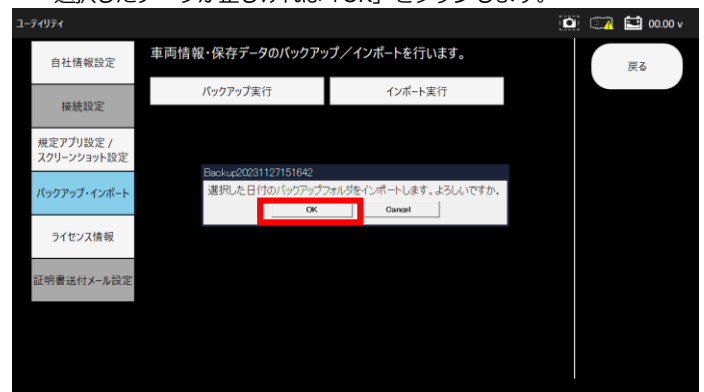


4-5-2. データのインポート（復元）

- (1) 「ユーティリティ」 - 「バックアップ / インポート」 を選択します。
- (2) インポートしたい年月日時間の項目を選択して「決定」をタップします。



- (3) 確認メッセージが表示されます。
選択したデータが正しければ「OK」をタップします。



- (4) 「インポート完了しました」 のメッセージが表示されれば復元完了です。



4-6. 規定アプリ設定 / スクリーンショット設定

証明書の印刷やメールのアプリ設定や、スクリーンショットの保存場所設定が行えます。

4-6-1. 規定アプリ設定

(1) 「ユーティリティ」-「規定アプリ設定／スクリーンショット設定」



(2) 「既定のアプリ設定」 を選択します。

本アプリにおいてメールや Web ブラウザー等は既定のアプリで設定されているアプリで表示を行います。
変更したい場合はアプリを変更してください。



4-6-2. スクリーンショット設定

(1) 「ユーティリティ」-「規定アプリ設定／スクリーンショット設定」 を選択します。

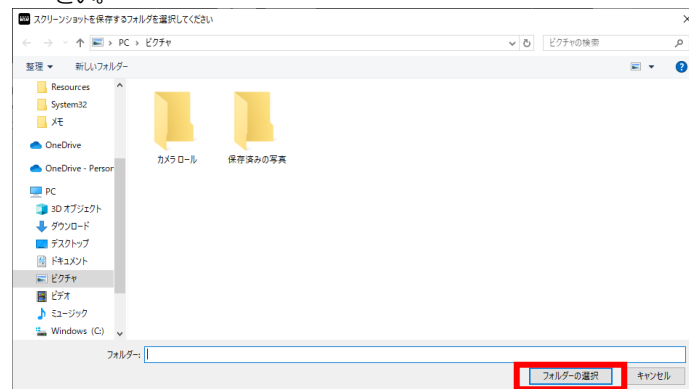
スクリーンショットの保存場所を変更した場合は「フォルダ選択」を選択してください。

デフォルトは「ピクチャ」フォルダに保存されます。



(2) 「フォルダ選択」を選択した場合は以下ダイアログが表示されます。

保存したいフォルダを選択し「フォルダーの選択」を選択してください。



5. 診断アプリの概要

本アプリケーションでは、車両と接続した I/F と通信することにより様々な車両診断を行うことができます。

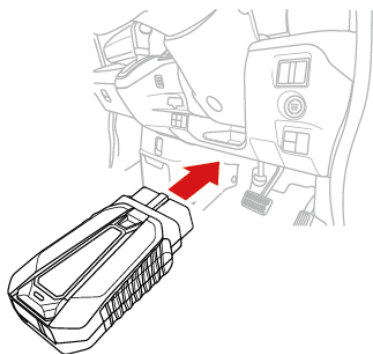
車両診断は車両メーカーにより、サポートされた各システムのそれぞれの機能を選択することで現在の車両状態を診断することができます。

① 故障コードの読取 ② 故障コードの消去 ③ データモニタ ④ フリーズフレーム ⑤ アクティブテスト ⑥ 作業サポート ⑦ カスタマイズ

6. 車両診断

6-1. 車両への接続

- (1) 車両のイグニッションスイッチが OFF の状態で車両診断コネクタ (DLC) に本体を接続します。



いすゞ・エルフなどの一部車両では、車両側診断コネクタに電源供給がされていない場合があります。その場合は、付属の電源アダプタとシガーケーブルを使用して車両側のシガーソケットから電源供給を行います。さらに、ワニ口アダプタを接続して車両側バッテリーから電源供給を行う事もできます。

6-2. 車両情報登録

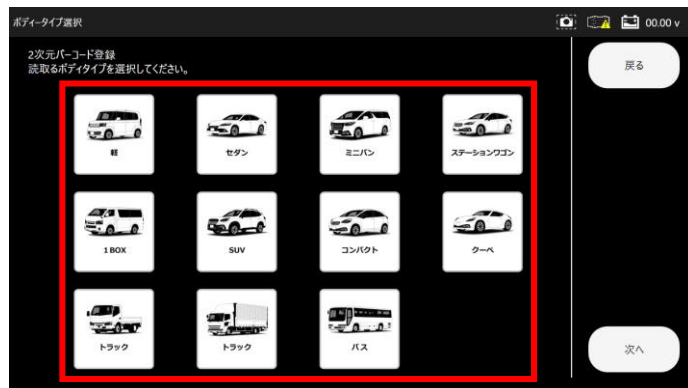
診断を行う前に、必要に応じて車両情報を登録します。

登録方法は、車検証の二次元バーコード読取りによる自動登録、手動による登録があります。また、車両情報を登録せず診断を行うことも可能です。但しその場合は車両診断履歴が保存されません。

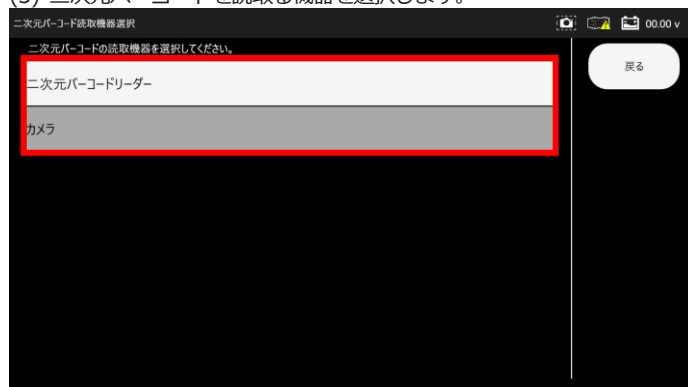
6-2-1.

自動車検査証の 二次元バーコード読取りによる車両情報自動登録

- (1) メインメニュー画面から「車両診断」 - 「2次元バーコード登録」を選択します。



- (3) 二次元バーコードを読取る機器を選択します。



- (4) カメラ選択時は、対象のカメラを選択し「普通自動車」または「軽自動車」のボタンを選択してください。



①は対象のカメラ設定を行うプルダウンとなっています。カメラが複数ある場合は選択して下さい。

■普通自動車の場合



■軽自動車の場合



(5) 2次元バーコードの読み込みが完了すると、自動で車両情報登録画面に切替わります。

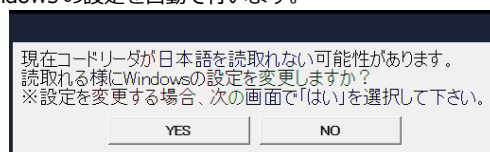


(6) (3)の手順で二次元バーコードリーダー選択の場合。

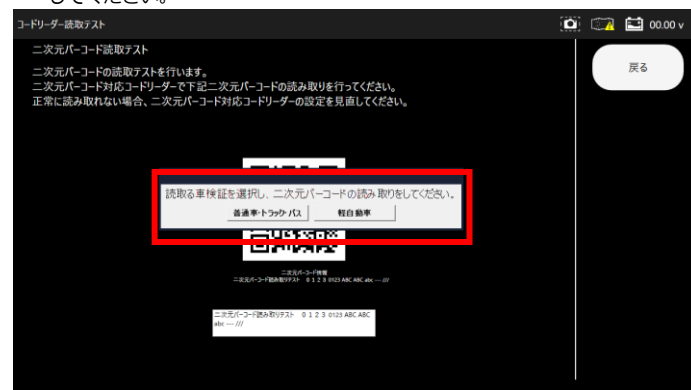
二次元バーコードリーダーで画面の二次元バーコード読取を行ってください。



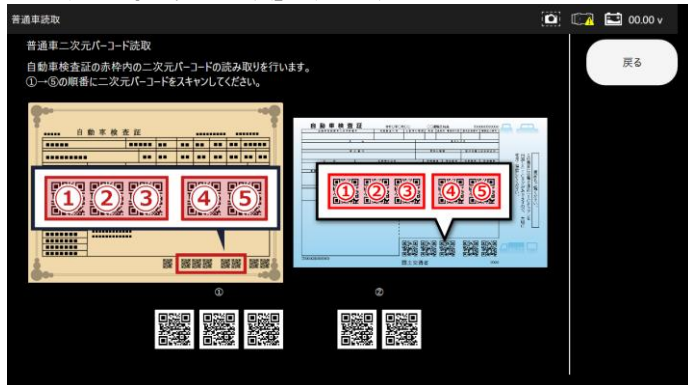
※以下メッセージウィンドウが表示された場合、QRコードリーダーの読取において、正常に読取れない可能性があるため、「YES」を選択してWindowsの設定を自動で行います。



(7) 正常に読取れた場合は「普通車・トラック・バス」又は「軽自動車」を選択してください。



■「普通車・トラック・バス」を選択した場合



■「軽自動車」を選択した場合



(8) 二次元バーコードの読み込みが完了すると、自動で車両情報登録画面に切り替わります。



6-2-2. 自動車検査証の IC チップ読取りによる車両情報自動登録

(1) メインメニュー画面から「車両診断」－「IC チップ登録」を選択します。



(2) 対象の車両タイプを選択します。
(証明書発行の際に使用されるアイコンとなります)



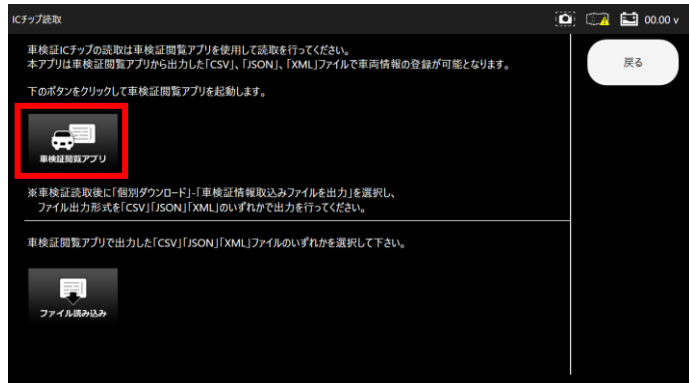
(3) IC チップ読取画面表示



(4) IC チップ読取について

本アプリにおいて、IC チップ車検証の読込自体出来ません。

「車検証閲覧アプリサイト」ボタンにて車検証閲覧アプリをダウンロードを行い、車検証閲覧アプリにおいて IC チップの読取を行ってください。読み取り結果を「csv」「json」「xml」のいずれかでファイル出力を行ってください。

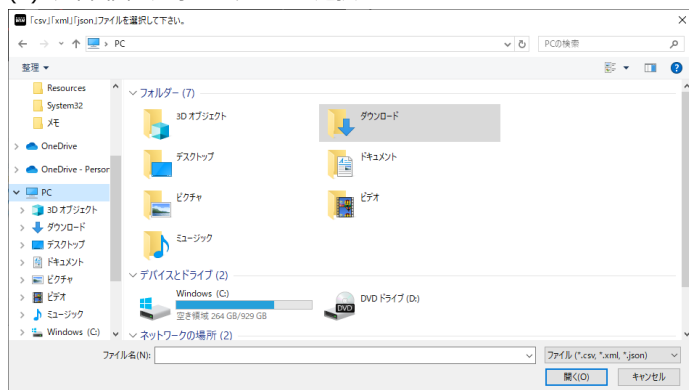


(5) IC チップ読取結果ファイル読み込み

「ファイル読み込み」を選択してください。



(6) 以下画面で対象のファイルを選択してください。



(7) ファイル読み込みが完了すると、自動で車両情報登録画面に切替わります

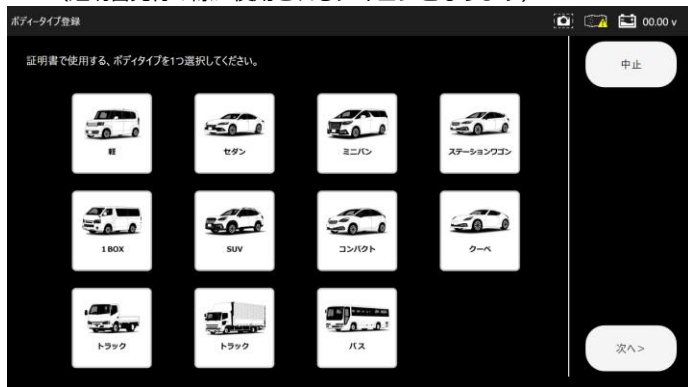


6-2-3. 手動による車両情報自動登録

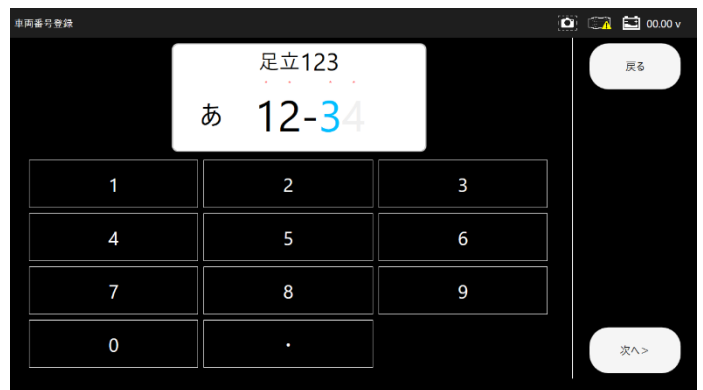
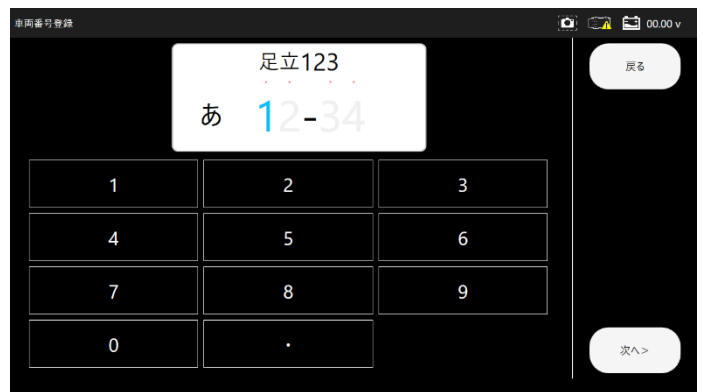
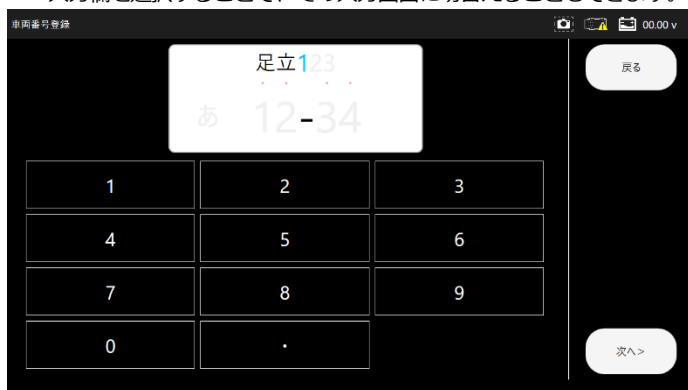
(1) 「手動登録」 を選択します。



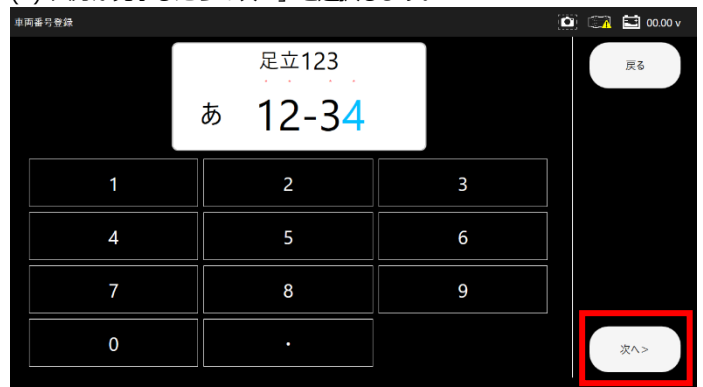
(2) 対象の車両タイプを選択します。
(証明書発行の際に使用されるアイコンとなります)



(3) 登録番号を入力エリアから選択します。
「使用の本拠の位置①」-「分類番号②」-「事業文字③」-「一連指定番号④」を順に入力すると自動で画面が切替わります。
入力欄を選択することで、その入力画面に切替えることもできます。



(4) 入力が完了したら「次へ」を選択します。



6-2-4. メーカー・車種の選択

(1) メーカーを選択します。

(2) 車種を選択します。

メーカー・車種の選択が完了したら「次へ」を選択します。

(3) 車両番号を入力します。

入力が完了したら「確定」をタップします。

(4) 車両情報の登録が完了しました。

6-2-5. 登録車両の削除

(1) 登録車両一覧から削除したい車両を選択します。
(反転しているのが選択状態です。)

(2) 確認ダイアログが表示されます。

選択した車両情報に間違いがなければ「YES」を選択します。

※削除を行った場合、その車両に関する履歴情報も削除されます。

(3) 選択した車両情報が削除されました。

6-3. 診断メニューの選択

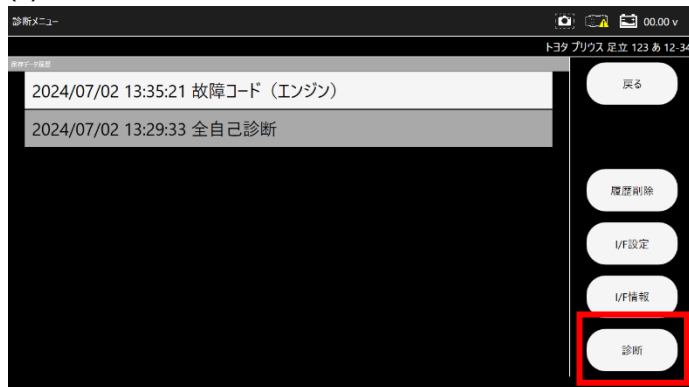
診断メニューからは以下の機能が行えます。

①	保存データ履歴表示	履歴一覧から保存データの表示を行います。
②	履歴削除	履歴から保存データの削除を行います。
③	I/F 設定	言語の設定を行います。
④	I/F 情報	本体シリアル番号、OS バージョン、ダウンロード及び本体保証期間が表示されます。
⑤	診断	診断を行います。

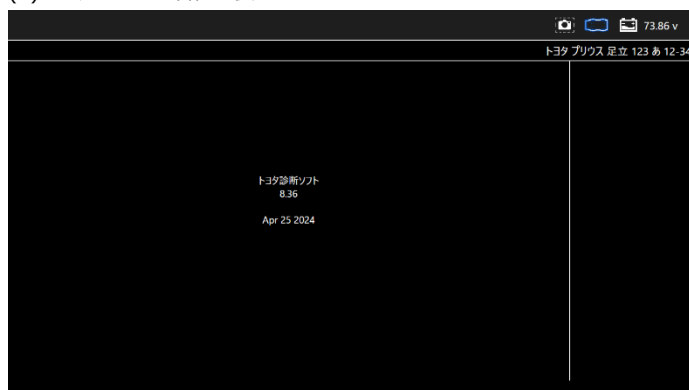
6-3-1. 診断から診断ソフトのメインメニュー表示

※以下トヨタソフトを例に説明します。

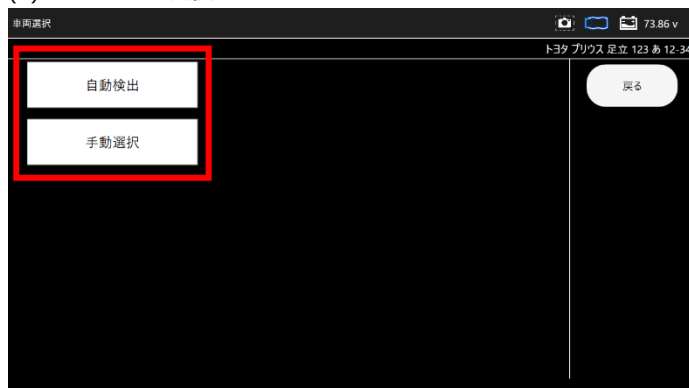
(1) 「診断」をタップします。



(2) 診断ソフトの名称が表示されます。



(3) オプションを選択してください。



(4) 診断ソフトのメインメニューが表示されます。



6-3-2. 自動遷移削除

車両情報登録後に一度診断を行うと、診断メーカーや車種などの情報が車両情報に関連付され、2回目からの診断時には選択することなく診断ソフトのメインメニューまで遷移します。
本機能では関連付された遷移情報を削除できます。

6-3-3. 診断ソフトのメインメニュー機能説明

各診断ソフトのメインメニューからは以下の機能が行えます。

①	診断	各システムの故障コードの読取、消去を行います。
②	カスタマイズ	シートベルト音の ON/OFF 設定など設定変更を行います。
③	作業サポート	ブレーキオイルのエア抜きや整備モード移行など学習や初期化などを行います。
④	アクティブテスト	電動ファン駆動やパワーバランステストなどの機能のテストを行います。
⑤	グローバル OBDII	グローバル OBDII ソフトでの診断やデータモニタなどを行います。
⑥	レディネステスト	排出ガス対策装置関係の故障コードの検知を行います。



6-4. 故障コードの読取り

(1) メインメニューから「診断」を選択します。



(2) システム選択画面が表示されます。
下記表を参考に選択項目を決定してください。



①	個別システム	系統別に区分された項目から個別にアクセスできます。
②	全自己診断	対応しているすべてのシステムの故障コードの有無を自動で検出できます。

6-4-1. 個別システムを選択した場合

故障コードの読取り・消去、またはデータモニタを行いたいシステムを系統別一覧から選択します。

(1) システム選択画面から「個別システム」を選択します。



(2) システム選択画面から診断したいシステムを選択します。



(3) 選択したシステムの診断メニューが表示されます。
「故障コードの読取り」を選択します。



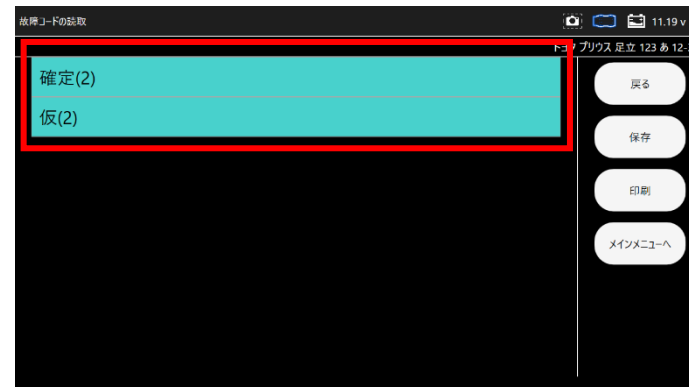
(4) 読取り結果が表示されます。

① 故障コードが記憶されていない場合

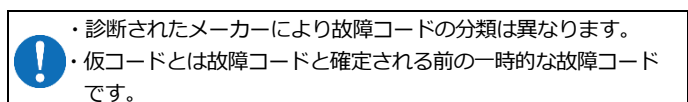
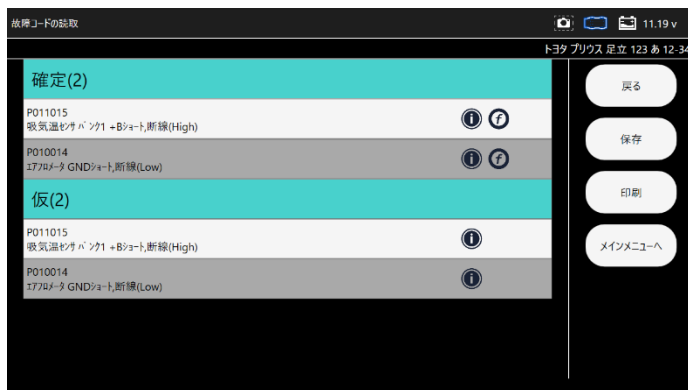


② 故障コードが記憶されている場合

分類された各欄をタップすると故障コードが表示されます。



<次ページへ続く>



6-4-2. 全自己診断を選択した場合

車両に搭載されている対応している全システムの故障コードの読取と消去を一括で行う項目です。

(1) システム選択画面から「全自己診断」を選択します。



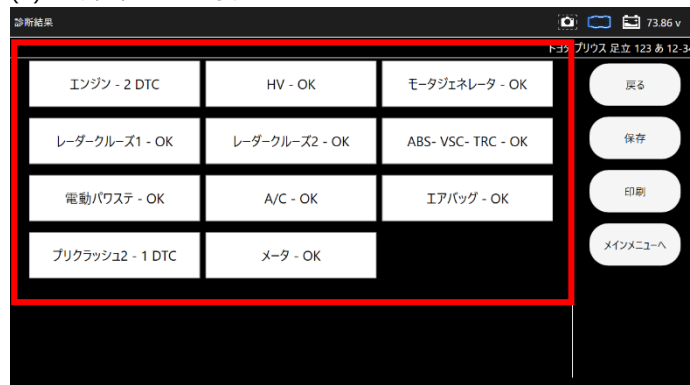
(2) 各システムの故障コードの確認が開始されます。



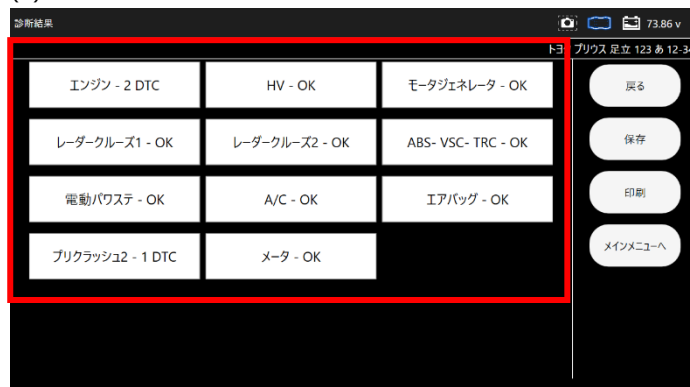
(3) 診断結果が画面左上に表示されます。
詳細の確認は「診断結果」を選択します。



(4) 診断結果の一覧が表示されます。



(5) 故障コードを確認する場合は、確認するシステム名を選択します。



(6) 選択したシステムの診断メニューが表示されます。
「故障コードの読取」を選択します。



(7) 読取以降の手順は、6-4-1 (4) ~と同様です。

6-5. 故障コードの消去

故障コードの消去は、以下のいずれかの方法で消去できます。

6-5-1. 個別システムからの故障コード消去

(1) システム毎の診断メニューから「故障コードの消去」を選択します。



(2) 「故障コードの消去」画面が表示されます。

消去を行う場合は「実行」、中止する場合は「中止」を選択します。



(3) 「実行」を選択すると「自己診断の消去中」のメッセージが表示された後、消去完了画面が表示されます。

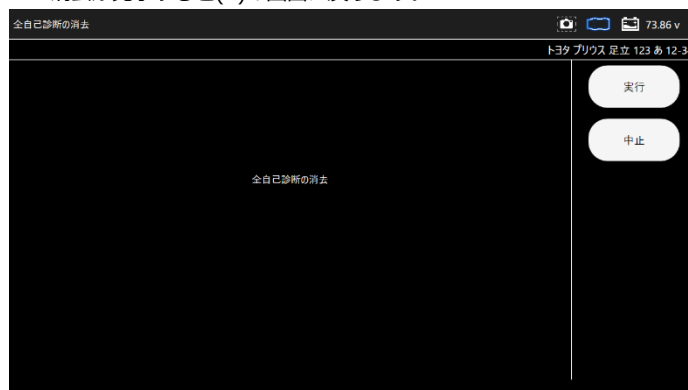


6-5-2. 全自己診断からの故障コード消去

(1) 全自己診断後の画面から「全自己診断の消去」を選択します。



(2) 消去選択後の手順は「個別システムからの消去」手順と同様です。
消去が完了すると(1)の画面に戻ります。



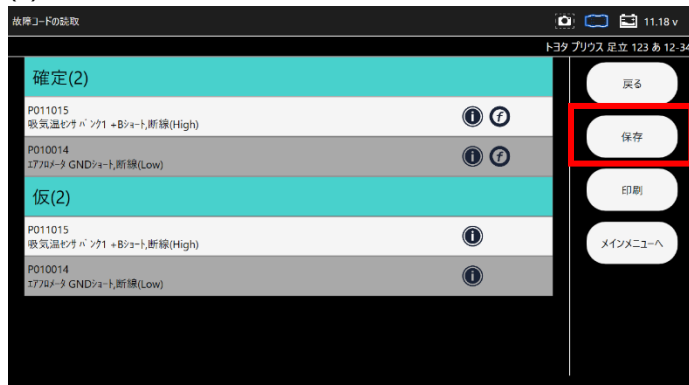
・画面左上の診断結果は、全てのシステムの故障コードが消去された場合には「全システム異常なし」、されていない場合には「○システム異常あり!」が表示されます。

6-6. 故障コードの保存

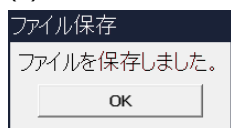
読取った故障コードは保存することができます。

6-6-1. 個別システムからの故障コード保存

(1) 故障コード読取結果画面から「保存」を選択します。



(2) 「ファイル保存」ダイアログが表示されファイルが保存されます。

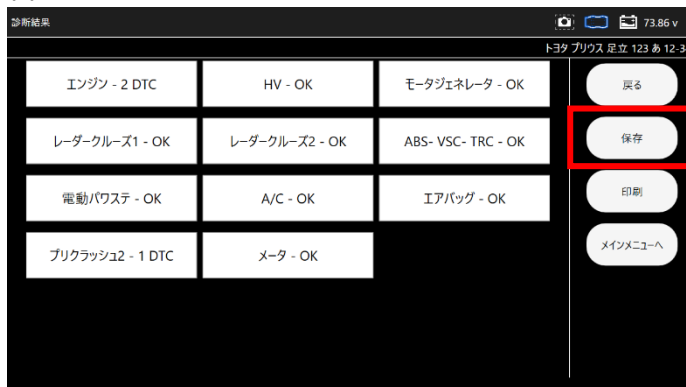


(3) 保存したファイルの閲覧方法については、

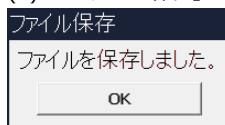
「6-13. 保存データ履歴表示と削除」を参照してください。

6-6-2. 全自己診断からの故障コード保存

(1) 全自己診断実施後に表示される画面から「保存」を選択します。



(2) 「ファイル保存」ダイアログが表示されファイルが保存されます。



(3) 保存したファイルの閲覧方法については、

「6-13. 保存データ履歴表示と削除」を参照してください。

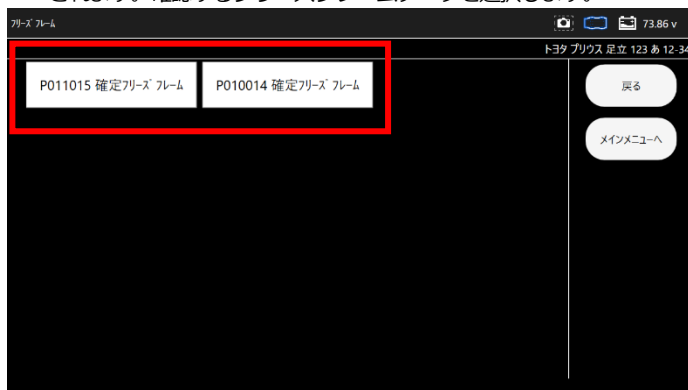
6-7. フリーズフレームデータ

6-7-1. 故障コード読取画面からの確認

(1) システム毎の診断メニューから「フリーズフレーム」を選択します。



(2) フリーズフレームデータが保存されている故障コード一覧が表示されます。確認するフリーズフレームデータを選択します。



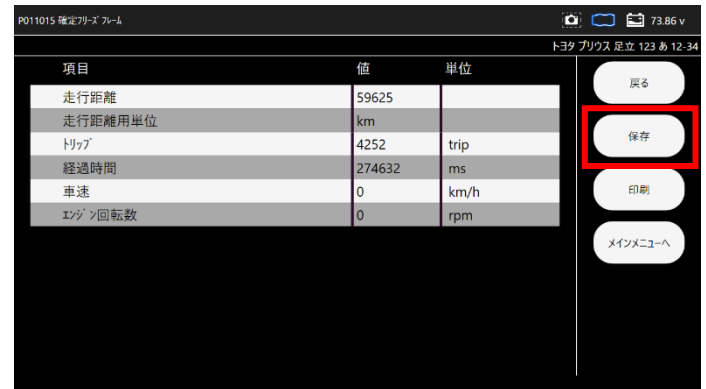
(3) 表示項目選択画面が表示されます。
表示項目左端のチェックボックスをタップするとチェックのOFF/ONができます。
(最初は全ての項目にチェックが入っている状態です)

表示したい項目にチェックが入っていることを確認して「実行」を選択します。



画面右のメニューから「すべて選択」「すべて解除」を選択することにより一括でチェックのOFF/ONができます。

(4) 「イニシャライズ中しばらくお待ち下さい」のメッセージが表示された後、フリーズフレームデータが表示されます。
フリーズフレームデータを保存する場合は「保存」を選択します。



複数の故障コードのフリーズフレームデータを保存する場合は、それぞれの故障コード毎に(2)～(4)の操作を行い保存する必要があります。

6-7-2. 全自己診断 診断結果からの確認

(1) 診断メニューから画面で「フリーズフレーム」を選択します

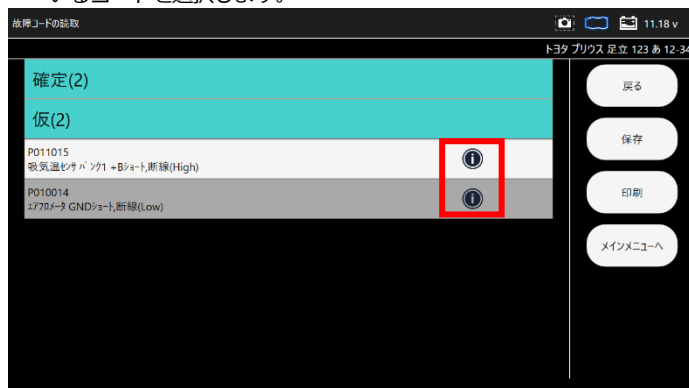


(2) 「フリーズフレーム」選択後以降の手順は「6-7-1. 故障コード読取画面からの確認」の(1)～(4)と同様です。

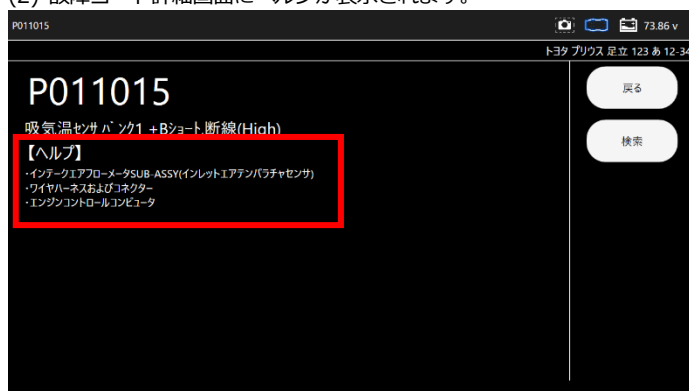
6-8. DTC ヘルプ機能

故障コード読取画面で「i」アイコンが表示されているコードについては推定故障箇所などの説明（ヘルプ）が表示されます。

- (1) 故障コード読取画面で故障コードの右端に「i」アイコンが表示されているコードを選択します。



- (2) 故障コード詳細画面にヘルプが表示されます。



6-9. データモニタ

各センサからECUへの入力値、ECU内の演算値やアクチュエータへの出力値などを数値またはグラフでリアルタイムに表示します。

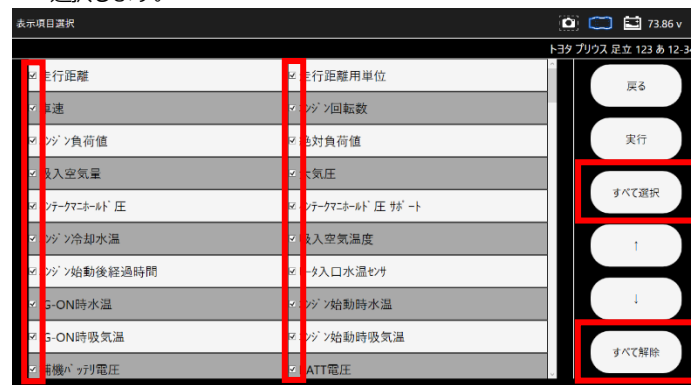
6-9-1. データモニタの表示

- (1) 診断メニュー画面で「データモニタ」を選択します。

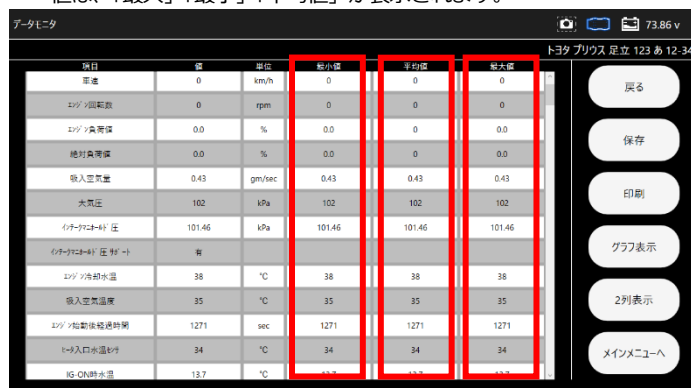


- (2) 表示項目選択画面が表示されます。
表示項目左端のチェックボックスをタップするとチェックのOFF/ONができます。
(最初は全ての項目にチェックが入っている状態です)

表示したい項目にチェックが入っていることを確認して「実行」を選択します。

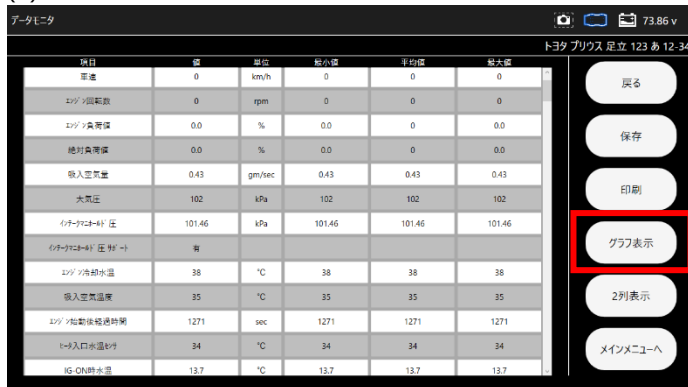


- (2) 選択した表示項目のデータモニタが実行されます。
値は、「最大」「最小」「平均値」が表示されます。



6-9-2. データモニタのグラフ表示

(1) データモニタ表示画面で「グラフ」を選択します。



(2) データモニタ表示がグラフ表示に切替わります。

「数値表示」を選択すると数値表示に戻ります。



6-9-3. データモニタの保存

(1) データモニタ表示画面で「保存」を選択します。

データモニタの「開始」選択時からのデータが保存されます。



(2) 「ファイル保存」ダイアログが表示されファイルが保存されます。



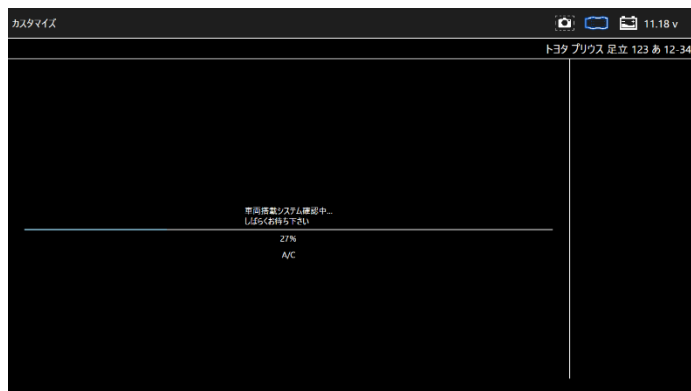
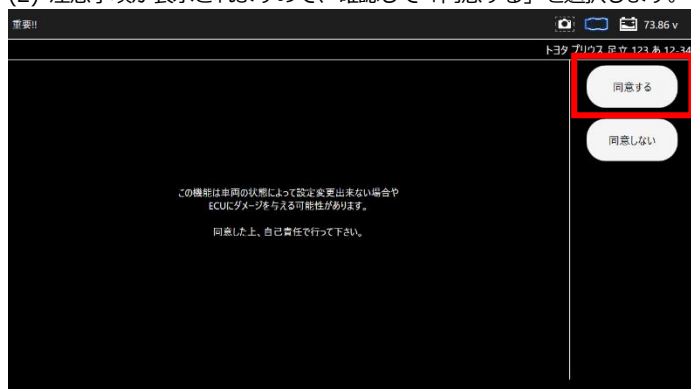
6-10. カスタマイズ

シートベルト警告音やリヤワイパー連動の ON/OFF など各システムの設定変更が行えます。

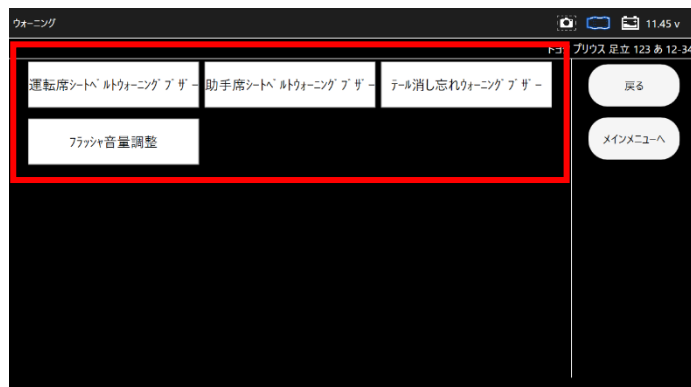
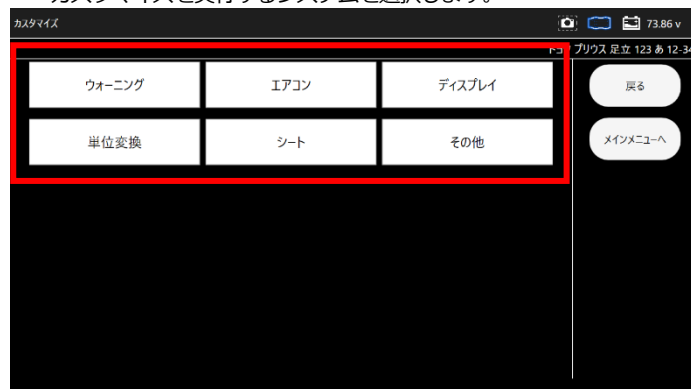
(1) ソフト毎のメインメニュー画面で「カスタマイズ」を選択します。



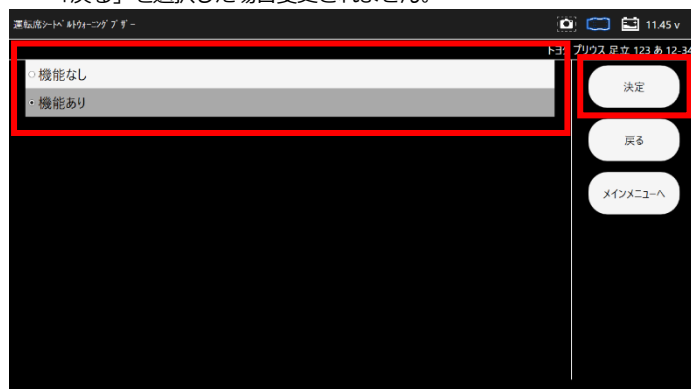
(2) 注意事項が表示されますので、確認して「同意する」を選択します。



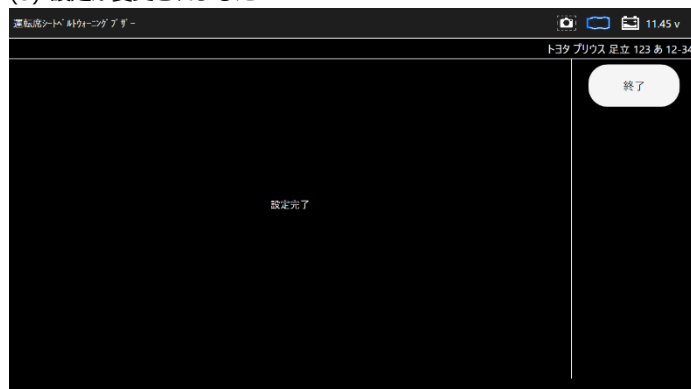
(3) カスタマイズシステム一覧が表示されます。カスタマイズを実行するシステムを選択します。



(4) 現在の設定が表示されます。設定変更して「決定」を選択します。「戻る」を選択した場合変更されません。



(5) 設定が変更されました



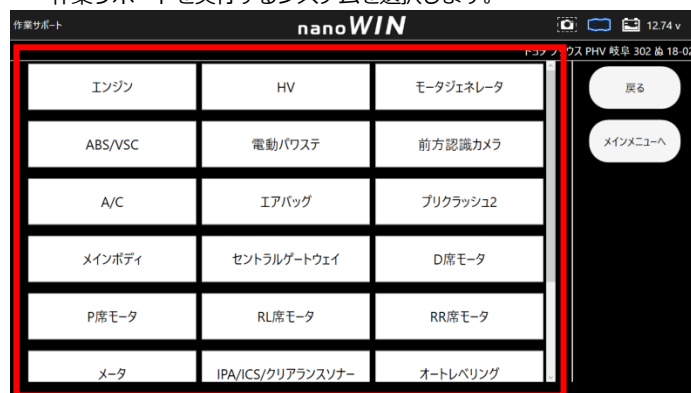
6-11. 作業サポート

ブレーキフルードのエア抜きやハイブリッド車の整備モード移行など整備に関する項目や、部品交換時の学習や初期化などを行います。

(1) ソフト毎のメインメニュー画面で「作業サポート」を選択します。



(2) 作業サポートシステム一覧が表示されます。
作業サポートを実行するシステムを選択します。



(3) 機能説明が表示されます。確認して「次へ」を選択します。



(4) 前提条件が表示されます。確認して「次へ」を選択します。



(5) ダイアグコードの有無が確認され、ダイアグコードがメモリされていない場合に ECU 初期化が実施できます。「次へ」を選択します。



(6) 初期化実施中



(7) 画面表示に従い操作を行い、「次へ」を選択します。



(8) ECU の初期化が完了しました。



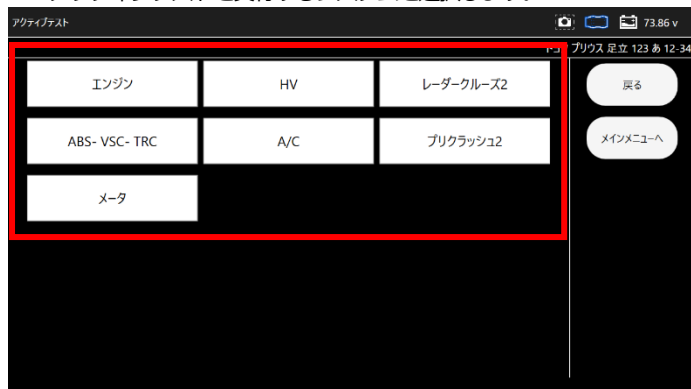
6-12. アクティブテスト

リレーやモーターの ON/OFF、 シリンダーパワーバランステストなど
車両 ECU へ指示を出し動作テストが行えます。

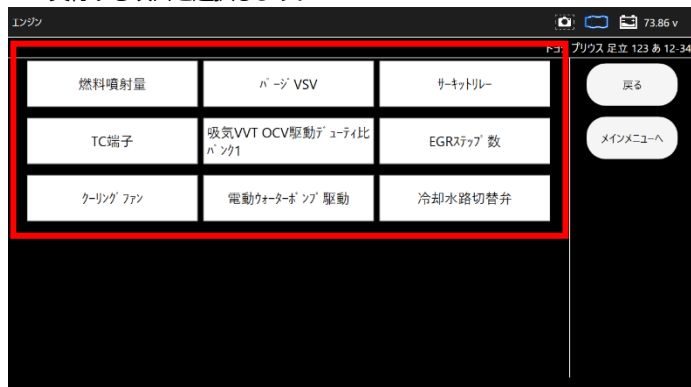
- (1) ソフト毎のメインメニュー画面で「アクティブテスト」を選択します。



- (2) アクティブテストシステム一覧が表示されます。
アクティブテストを実行するシステムを選択します。



- (3) アクティブテスト項目一覧が表示されます。
実行する項目を選択します。



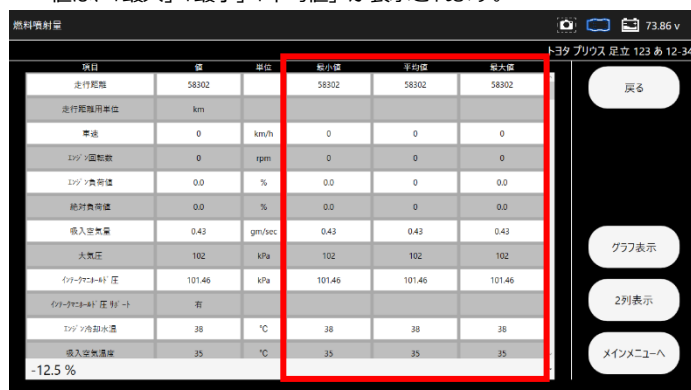
- (4) アクティブテストの詳細が表示されます。
「次へ」を選択します。



- (5) アクティブテストの前提条件が表示されます。
「次へ」を選択します。



- (6) 選択した表示項目のアクティブテストが実行されます。
値は、「最大」「最小」「平均値」が表示されます。

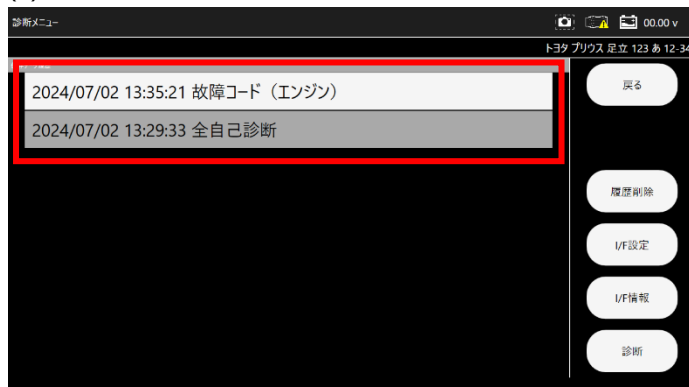


6-13. 保存データ履歴表示と削除

履歴一覧から保存データの表示が行えます。

6-13-1. 診断メニューから保存データ履歴を表示

(1) 診断メニューを開き、任意の保存データ履歴を選択します。

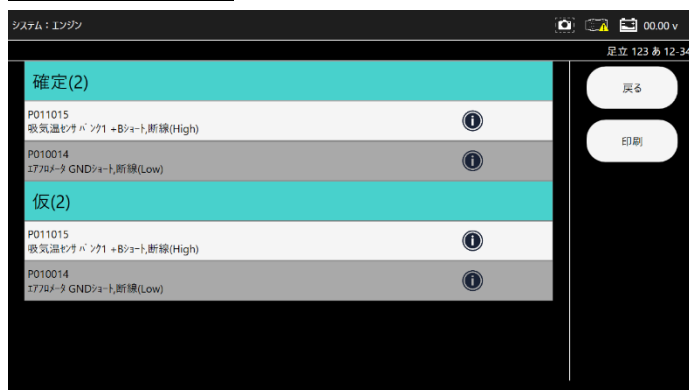


(2) 保存したデータが表示されます。

全自己診断の場合

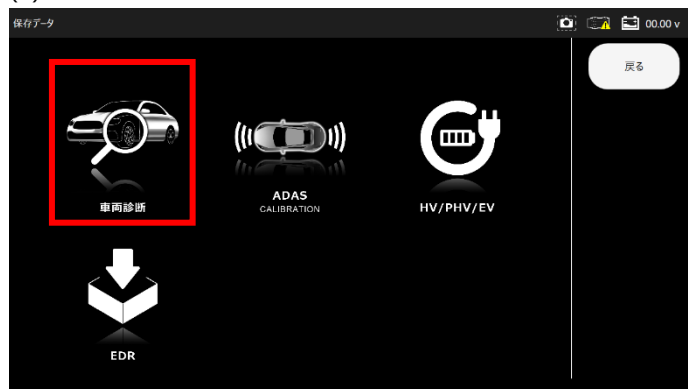


個別システムの場合

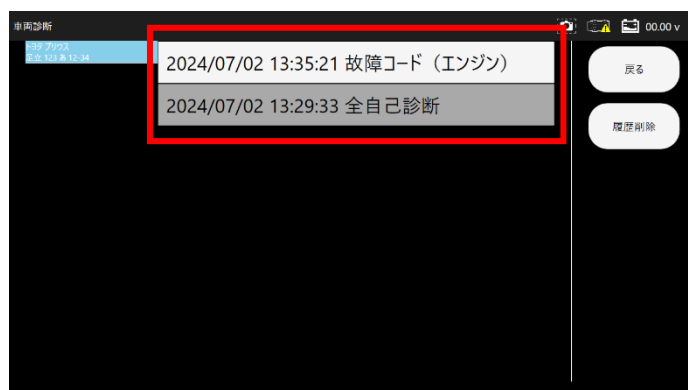
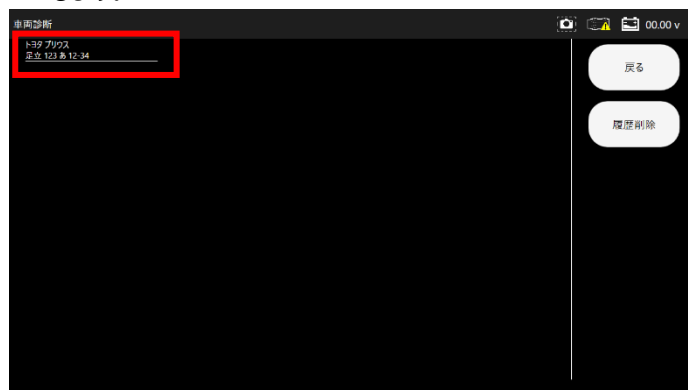


6-13-2. 保存データから保存データ履歴を表示

(1) 保存データから「車両診断」をタップします。



(2) 表示したい保存データの車両を選択し、任意保存データ履歴をタップします。

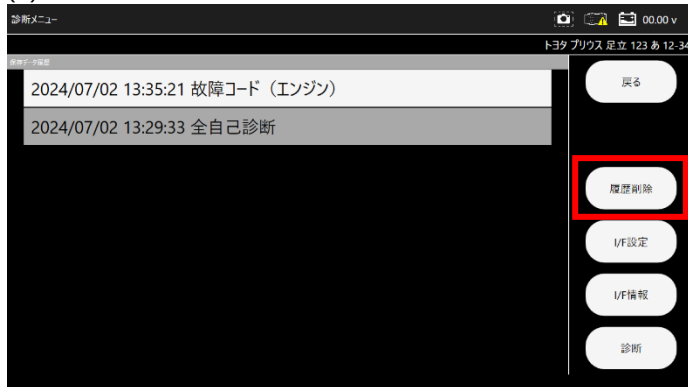


(3) 保存データ履歴選択後以降は

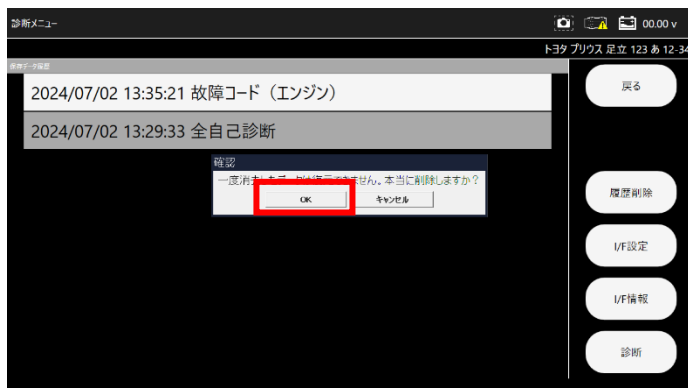
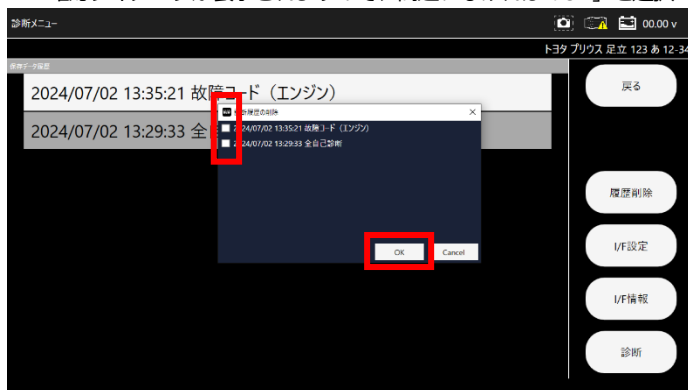
「6-13-1 診断メニューから保存データ履歴を表示」(2)と同様です。

6-13-3. 診断メニューから保存データ履歴を削除

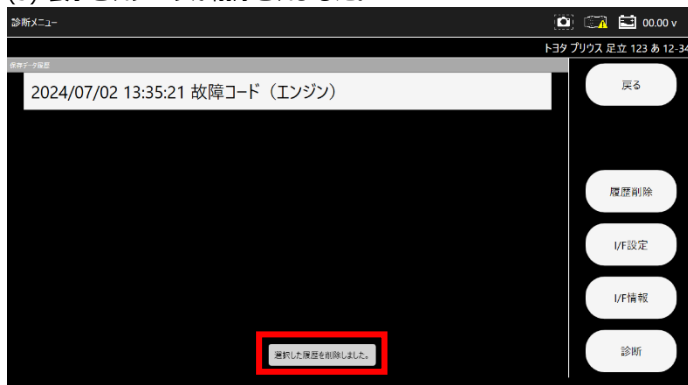
(1) 診断メニューを開き、「履歴削除」を選択します。



(2) 削除するデータを選択してチェックを入れます。
確認ダイアログが表示されますので、間違いなければ「OK」を選択



(3) 表示されデータが削除されました。

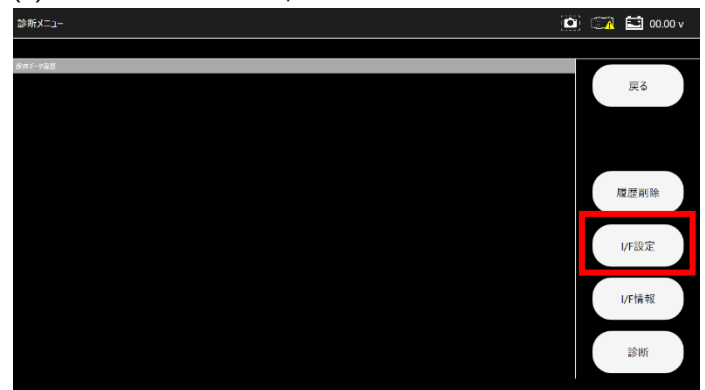


※同様の事はメインメニューの「保存データ」からも行えます。

6-14. I/F 設定

I/F 設定から言語の切り替えが行えます。

(1) 診断メニュー画面から「I/F 設定」を選択します。

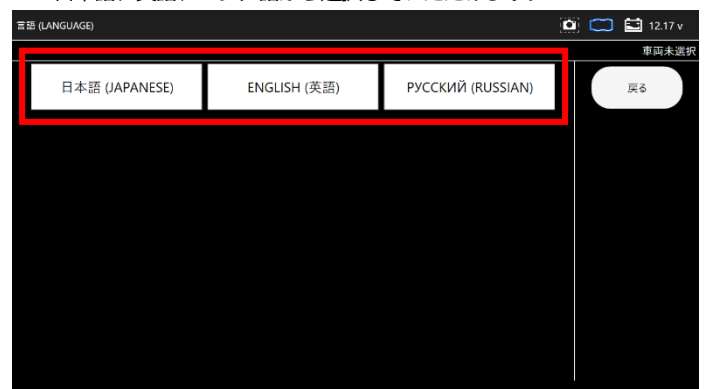


(2) 「言語 (LANGUAGE)」を選択します。



! 現在設定されている言語によって「LANGUAGE (言語)」などのように選択ボタンの表示が異なります。

(3) 言語選択画面が表示されます。
日本語、英語、ロシア語から選択していただけます。



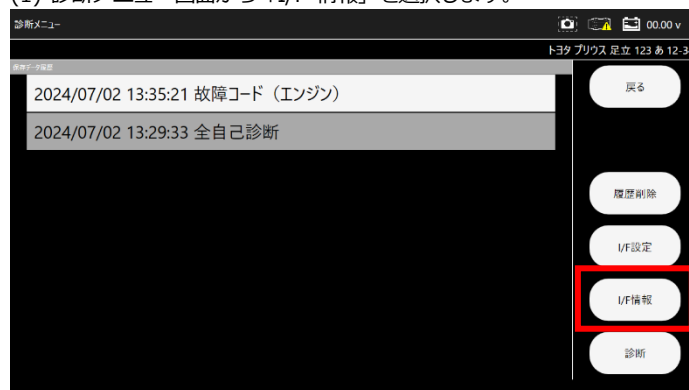
(4) 選択された言語によって画面表示が変更されます。

【例：英語を選択した場合】

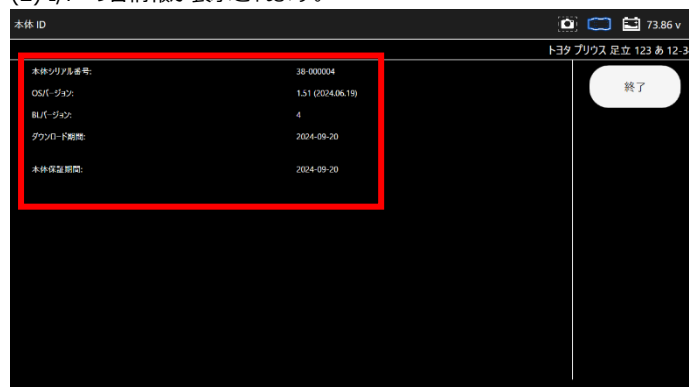


6-15. I/F 情報

(1) 診断メニュー画面から「I/F 情報」を選択します。



(2) I/F の各情報が表示されます。



7. 特殊機能

各診断ソフトの作業サポート機能をまとめて、選択の手間を省略化した機能です。

メンテナンスモード、DPF 再生機能、エーミングモードの実行が可能です。

7-1. 特殊機能項目

(1) メインメニュー画面から「特殊機能」を選択します。



(2) 特殊機能項目選択画面が表示されます。



①	メンテナンスモード	ブレーキオイルのエア抜きや、整備モード移行など日常点検に必要な作業サポート機能が纏められています。
②	DPF	国産トラックメーカーの DPF 再生関連の機能がまとまっています。
③	エーミング	エーミング関連の機能がまとまっています。
④	EDR	EDR 機能を実行できます。

8. ユーザーガイド

本体説明やソフト取扱説明などをまとめた項目です。

8-1. ユーザーガイド項目

(1) メインメニュー画面から「ユーザーガイド」を選択します。



(2) ユーザーガイド項目選択画面が表示されます。



①	ソフトの取扱説明	本取扱説明書が表示されます。
②	クイックマニュアル	製品に同梱されているクイックスタートガイドが PDF 形式で表示されます。
③	外部リンク	FAINES やメーカーごとの自動車リコール情報などがまとまっています。
④	整備技術情報	エーミングデータの情報がまとまっています。

9. ADAS CALIBRATION

全自己診断とエーミングを行い、エーミングの結果を証明書に反映します。

9-1. エーミング

9-1-1. 1 回目の自己診断

(1) メインメニュー画面から「ADAS CALIBRATION」を選択します。

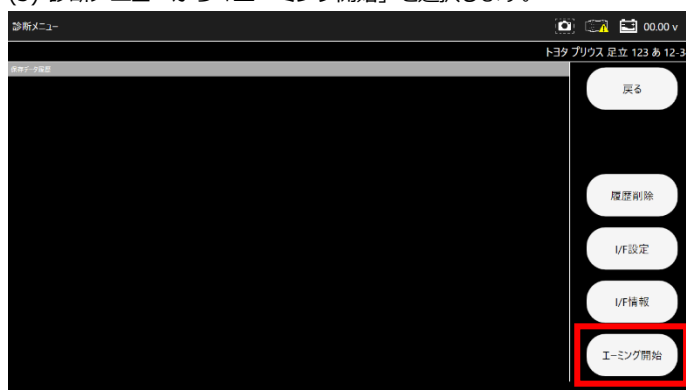


(2) エーミングをしたい車両を選択します。



※画像は既に登録された車両を選択しています。

(3) 診断メニューから「エーミング開始」を選択します。



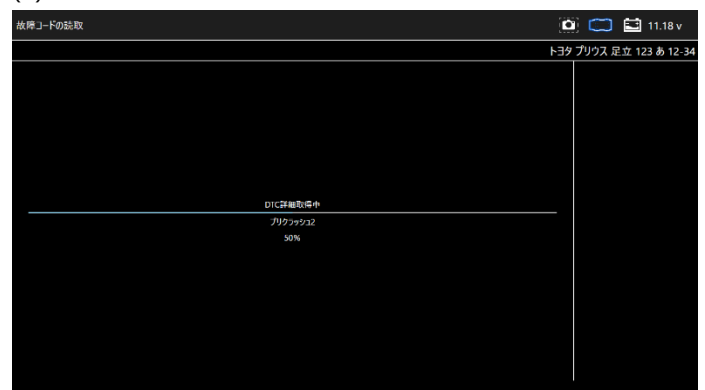
(4) 地域設定を選択します。



(5) 車両搭載システムの確認が開始されます。



(6) DTC 詳細が取得されます。



診断結果	
システム系	P011015 吸気量センサバンプ1 + 4ピン1 断線(高Light) P010014 17/100-3 GND(シャフト)断線(Low)
エンジン	P011015 吸気量センサバンプ1 + 4ピン1 断線(高Light) P010014 17/100-3 GND(シャフト)断線(Low)
HV	OK
モータジェネレータ	OK
レータクルス1	OK
レータクルス2	OK
ABS VSC TRC	OK
電装/パワステ	OK
A/C	OK
エグザウグ	OK
ブリクコンシ2	C1A63 他/システム異常
メータ	OK

A screenshot of a Windows 10 desktop displaying a blue screen of death (BSOD) error. The error message, written in Japanese, reads: "常時書き込みシステム確認中... しばらくお待ち下さい" (Continuously writing to the system, please wait...). Below the message is a progress bar showing 0% completion, followed by the text "エンジン" (Engine). The taskbar at the bottom of the screen contains the Start button, a search bar, and several pinned applications: "エーシング モード" (Easing Mode), "Google Chrome", "Microsoft Edge", "File Explorer", "Task Manager", and "PowerShell". The system tray in the bottom right corner shows the date and time as "12/30/2023 12:34" and the network status as "73.86 v". The desktop background is a solid blue color.

E-リングモード

73.86 v

トヨタ プリウス 足立 123 車 12-34

HV

プリクラッシュ2

E-リング終了

Control Panel

Front Laser

制御モード移行

前方レーダー光軸調整

前方レーダー光軸ずれ量確認

前方レーダー光軸補正量確認

履歴消去

戻る

前方レーザ-光軸調整

トヨタ プリウス 終点 123 秒 12-34

修理費通しにターゲットが設定されていることを
確認して下さい。

次の画面で、光軸調整を開始します。

注意：
調整実施中はレーザ発信部から電波が発信されます。
作業中はレーザ発信部から20cm以上離れて下さい。

次へ

中止

[illegible]

お客様名や走行距離など証明書に表示する情報を編集できます。

(1) 診断結果画面から「編集」を選択します。

[illegible]

(2) 編集したい情報を入力します。

入力後「証明書に反映する」をタップします。

車検

車情報

00.00 v

お客様名

走行距離

事故歴

走行テスト

エンジンチェックランプ

タイヤサイズ

FL: FR:

RL: RR:

タイヤ溝(mm)

FL: FR:

RL: RR:

証明書に反映する

1

00:00 v

お客様名

走行距離

事故歴

エンジンチェックランプ

タイヤサイズ

FL: FR:

RL: RR:

タイヤ溝(mm)

FL: FR:

RL: RR:

証明書に反映する

2

FL:

FR:




00.00 v

RL:

RR:

証明書に反映する

エーミング項目





作業内容





備考欄

3

カメラアイコン 黄色アラートアイコン 設定アイコン 00.00 v





作業内容

備考欄

画像選択
 最大選択枚数は4枚です。最大枚数以上に選択された場合は以降の画像は取得出来ません。

イメージ風景画像



画像選択

4

(3) 診断結果画面に戻ります。

編集した情報が証明書に反映しているか確認してください。

[illegible]

9-3-1. ADAS 車両情報選択から保存データ履歴を表示

(1) メインメニューから「ADAS」を選択します。

(2) 以降は「6-13. 保存データ履歴表示と削除」の操作と同様です。

(1) 保存データから「ADAS」を選択します。

(2) 以降は「6-13. 保存データ履歴表示と削除」の操作と同様です。

10. HV/PHV/EV

EV の診断を行い、診断結果を証明書に反映します。

※現在、診断が行える車種がトヨタ・日産・三菱の一部のハイブリッド車種のみとなります。今後のアップデートで様々な車種を対応予定です。

10-1. HV/PHV/EV

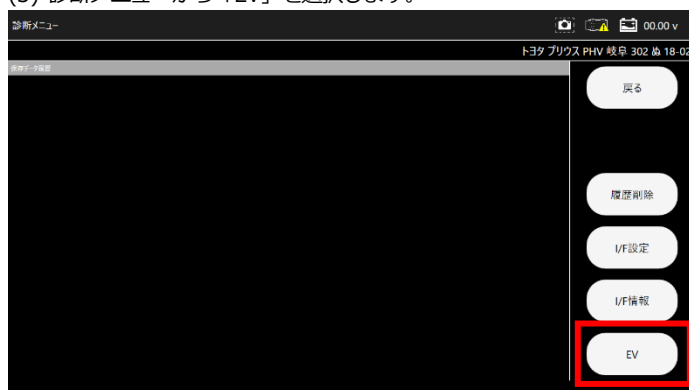
(1) メインメニューから「HV/PHV/EV」を選択します。



(2) HV/PHV/EV 診断をおこなう車両を選択します。
「診断メニュー」をタップします。



(3) 診断メニューから「EV」を選択します。



(4) 地域設定を選択します。



(5) HV/PHV/EV 診断が開始されます。



(6) 表示したい項目を選択します。

表示項目の左端にあるチェックボックスをタップするとチェックの OFF/ON ができます。

(最初は全ての項目にチェックが入り選択されている状態です)

表示したい項目にチェックが入っていることを確認して「実行」を選択します。



- (7) 選択した項目に応じて、データモニタが表示されます。
「保存」を選択します。



- (8) 保存完了ダイアログが表示されます。「OK」を選択します。

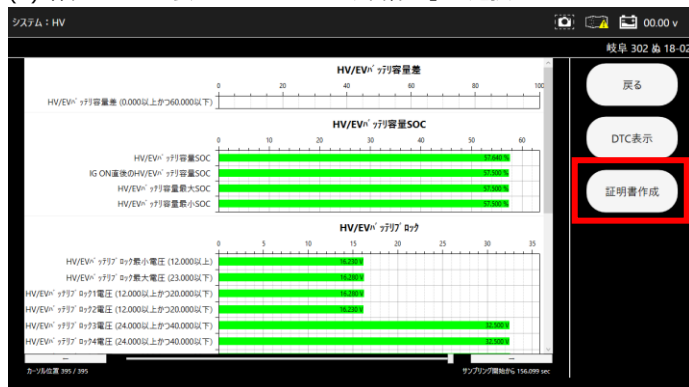


10-2. 証明書の作成

- (1) 診断メニューの保存データ履歴から、証明書を作成したい保存データを選択します。



- (2) 保存データが表示されます。「証明書作成」を選択します。



- (3) HV/PHV/EV 証明書が表示されます。



10-3. 保存データ履歴表示と削除

10-3-1. HV/PHV/EV 車両情報選択から保存データ履歴を表示

- (1) メインメニューから「HV/PHV/EV」を選択します。
(2) 以降は「6-13. 保存データ履歴表示と削除」の操作と同様です。

10-3-2. 保存データ画面から保存データ履歴を表示

- (1) 保存データから「HV/PHV/EV」を選択します。
(2) 以降は「6-13. 保存データ履歴表示と削除」の操作と同様です。

11. EDR

EDR (Event Data Recorder) の診断を行います。

11-1. EDR

11-1-1. EDR データの表示

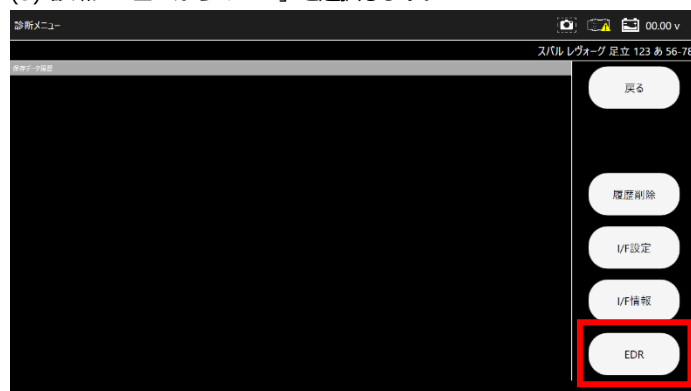
(1) メインメニューから「EDR」を選択します。



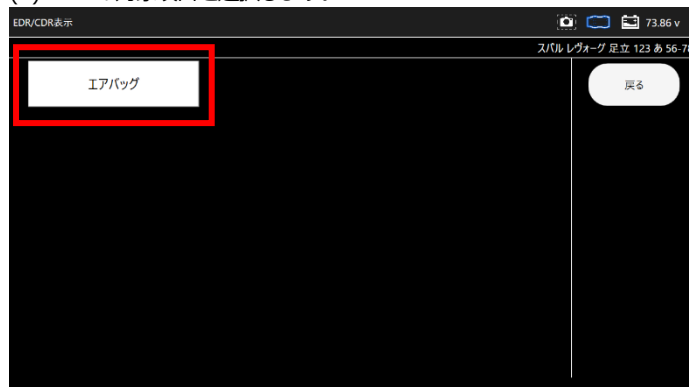
(2) EDR 診断を行う車両を選択し、「診断メニュー」を選択します。



(3) 診断メニューから「EDR」を選択します。



(4) EDR の対象項目を選択します。



(5) 「イベントレコードデータ表示」を選択します。



(6) 重要事項の確認を行い問題がなければ「はい」を選択します。



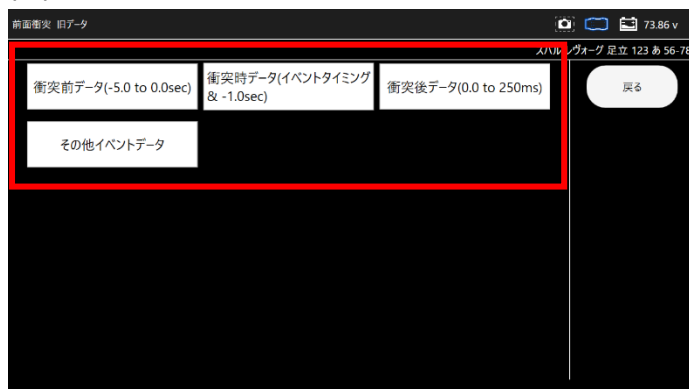
(7) レコード記録表示選択画面では「はい」を選択します。



(9) EDR の項目が表示されます。対象の項目を選択して下さい。



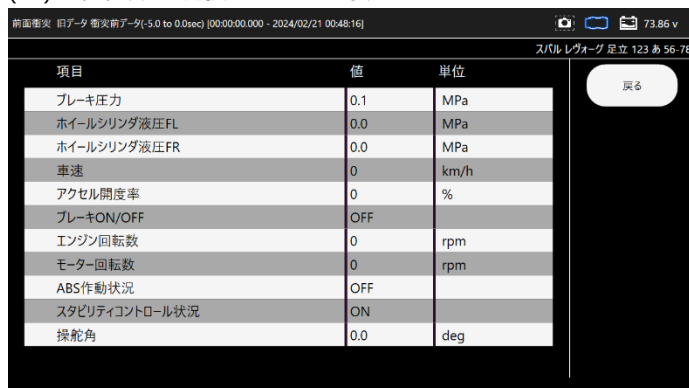
(10) 詳細項目が表示されます。表示したい項目を選択します。



(11) 時間軸の項目が表示されます。対象の項目を選択して下さい



(12) 時間軸項目を選択後にデータが表示されます。



11-1-2. EDR データの保存

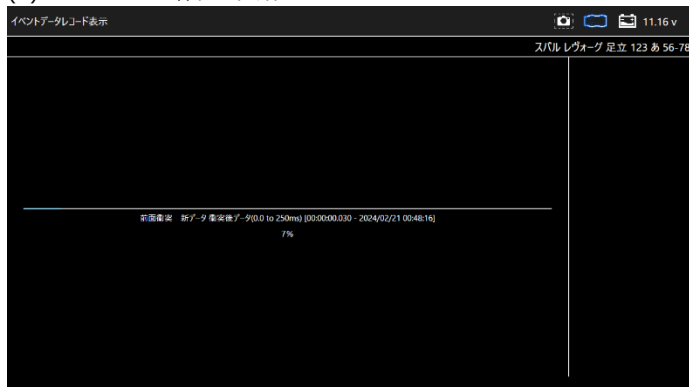
(1) EDR の項目が表示される画面で「保存」を選択します。



(2) ダイアログが表示されるので「YES」を選択します。



(3) EDR データの保存が開始されます。

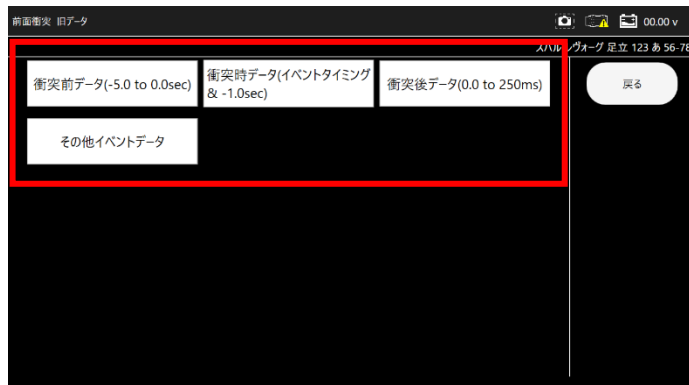


11-2. 証明書の作成

- (1) 診断メニューの保存データ履歴から、証明書を作成したい保存データを選択します。



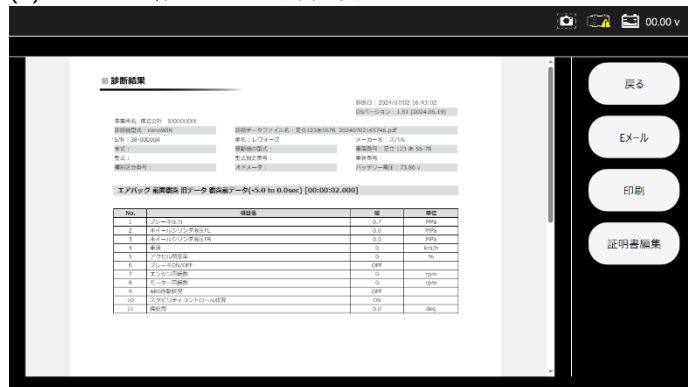
- (2) EDR の項目が表示されるので、対象の項目を選択していきます。



- (3) 下のカーソルで時間軸を指定し、「証明書作成」を選択します。



- (4) データから作成された証明書が表示されます。



11-3. 保存データ履歴表示と削除

11-3-1. EDR 車両情報選択から保存データ履歴を表示

- (1) メインメニューから「EDR」を選択します。
(2) 以降は「6-13. 保存データ履歴表示と削除」の操作と同様です。

11-3-2. 保存データ画面から保存データ履歴を表示

- (1) 保存データから「EDR」を選択します。
(2) 以降は「6-13. 保存データ履歴表示と削除」の操作と同様です。

12. 更新

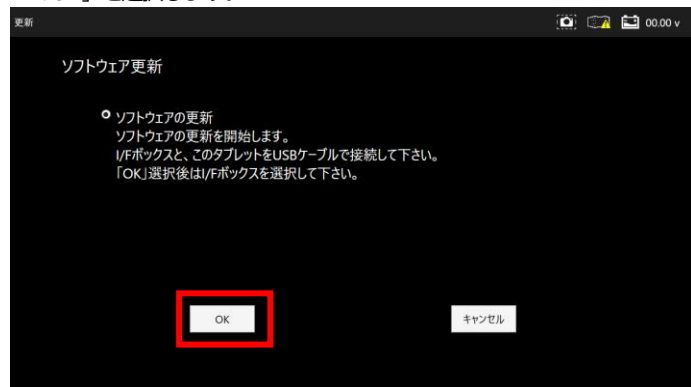
アプリや診断ソフトウェアの更新を行います。

12-1. I/F とアプリの更新

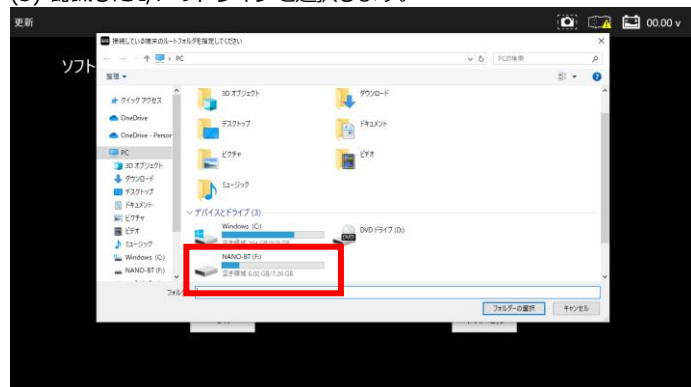
(1) メインメニューから「更新」を選択します。



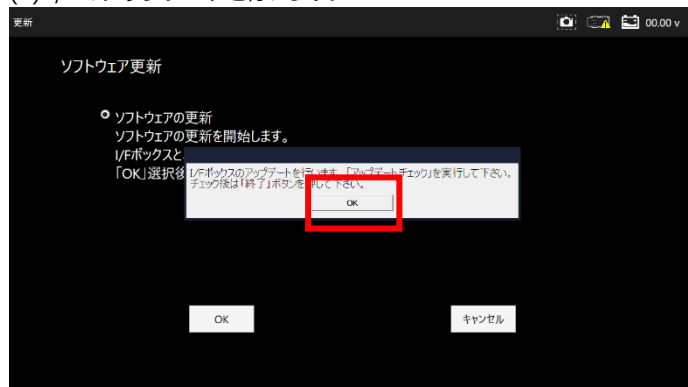
(2) I/F を付属の USB Type C ケーブルで PC に接続を行った後、「OK」を選択します。



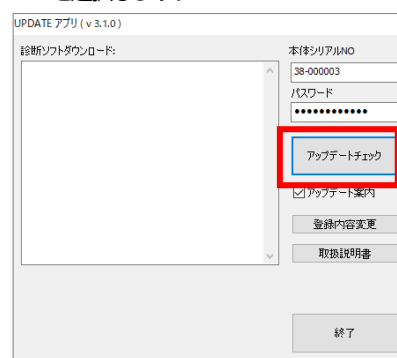
(3) 認識した I/F のドライブを選択します。



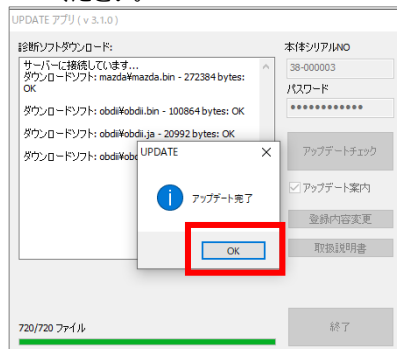
(4) I/F のアップデートを行います。



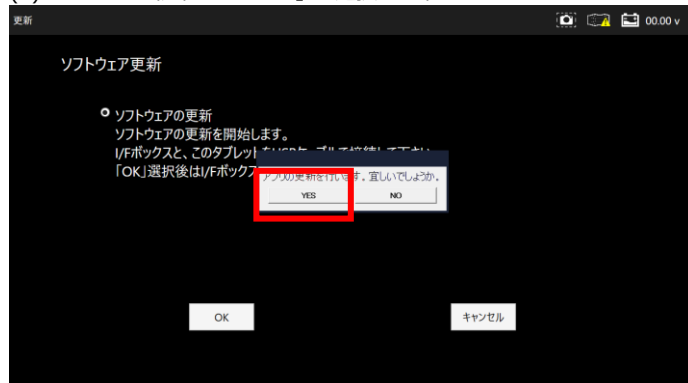
(5) アップデートプログラムが起動しますので「アップデートチェック」を選択します。



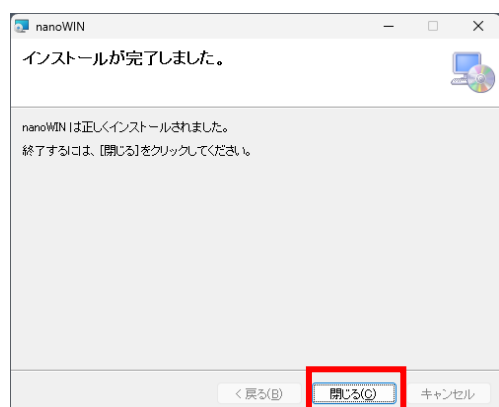
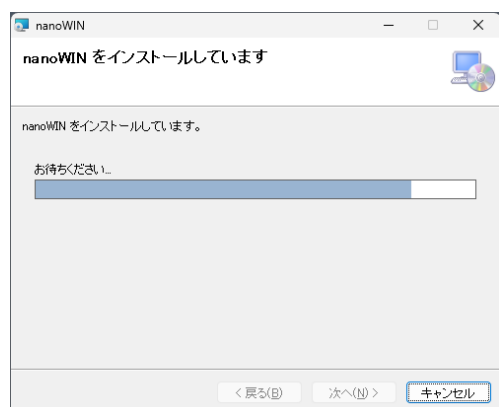
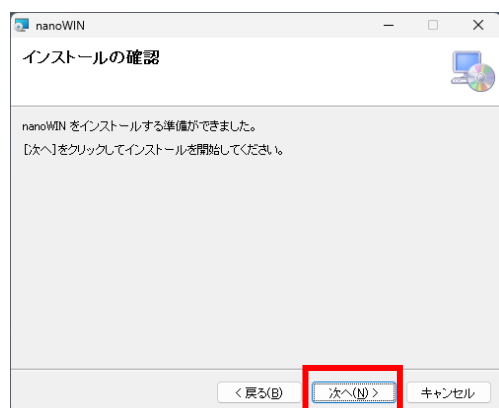
(6) アップデート終了後は「OK」ボタン選択後に「終了」を選択してください。



(7) アプリの更新確認で「YES」を選択して下さい。

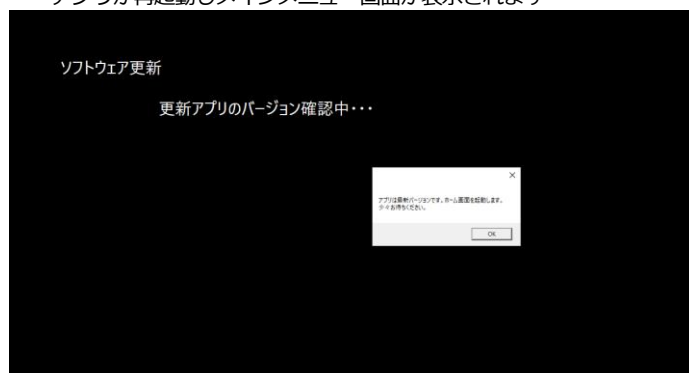


- (8) 更新がある場合はインストール用のダイアログが表示されます。
ダイアログに従い「次へ」または「閉じる」を選択してください。



※メインアプリと更新アプリの両方にアップデートがある場合は
インストールは2回実行されます

- (9) アップデートが無い場合は下記画面が表示され、「OK」選択後に
アプリが再起動しメインメニュー画面が表示されます



13. 保証

13-1. 保証期間

ユーザー登録から 1 年間

本体保証は nanoWIN 本体および USB ケーブルのみです。
その他付属品は保証対象外となります。

13-2. 保証規定

本製品は、お客様がインターネットを使用してユーザー登録した日を開始日として 1 年間にわたり、材料と製造上の欠陥に対し保証されています。但し、保証期間はインターネットを使用して、正しくユーザー登録されている場合にのみ有効です。

- ・ 保証期間内に正常な使用状態での使用にて故障した場合は、無償修理いたします。
- ・ 火災、天災による故障の場合は保証対象外となります。
- ・ 本保証は、乱用、改造、あるいは意図された用途以外の目的に使用されたり、使用方法に関する取扱説明書に一致しない方法で使用されたいかなる部品に対しても適用されません。これには本製品に使われているあらゆるネジの取り外しが含まれます。
(但し、それに限定されるものではありません)
- ・ 原則本製品は現品修理となります。
修理期間中の貸出機などのご用意はございません。
- ・ 本製品を修理のために送付しなければならない場合の往復運賃はお客様ご負担となります。予めご了承ください。

13-3. お問い合わせ

販売元：株式会社アルティア

〒104-6206

東京都中央区晴海 1-8-12

晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワーZ 棟 6 階

《札幌・仙台・関東信越・首都圏・名古屋・大阪・広島・福岡》

<https://altia.co.jp/locations/>

製造元：株式会社ツールプラネット

〒500-8122 岐阜県岐阜市旭見ヶ池町 43-2

<https://www.toolplanet.jp/company>